

2024年度（令和6年度）

講義計画

（シラバス）

農学部

総合農産科
総合畜産科

大分県立農業大学校

学生・指導教官にお願い

学生:計画が変更になる場合があります。

講義の最初の時間に持参し説明を受けて下さい。

この冊子には成績評価の基準・単位認定の方法など指導内容と成績評価について記載されています。必ず読んで下さい。

この冊子は高等教育無償化に対応した実務経験のある講師の講義一覧を添付しています。該当の学生は必ず参照して下さい。

教官:講義の最初に学生への説明をお願いします。

変更がある場合は講師室の書き換え原本に直接書き込んで下さい。

変更がある場合は学生に直接口頭で説明して下さい。

データベースが必要な方は教務までお申し出下さい。

目次

区分	科目	ページ
教養科目	経済活動と法律	… 1
	くらしとことば	… 2
	現代社会と文化	… 3
	農業と化学	… 4
	体育	… 5
共通科目	情報処理1	… 6
	情報処理2	… 7
	農業総論	…
	バイオ	…
	作物	… 8
	畜産	…
	林業	…
	農業機械	… 9
	農業機械演習	… 10
	土壌肥料	… 11
	農業政策総論	… 12
	農畜産物流通	… 13
	環境保全型農業	… 14
	農業気象	… 15
	簿記基礎	… 16
	GAP	… 17
	スマート農業概論	… 18
	選択科目	農業数学
フラワーデザイン		… 20
応用英語		… 21
基礎数学		… 22
販売促進力向上講座		… 23
生物		… 24
農業土木と水利		… 25
危険物資格取得講座		… 26
基礎英語		… 27
組織マネジメント論		… 28
ビジネスマナー		… 29
選択科目 経営特別講座	食品管理と加工	… 30
	土壌肥料演習	… 31
	農業簿記	… 32
	消費者「ニーズ」とマーケティング	… 33
	企業経営論	… 34
	アグリビジネス論	… 35
	農業経営分析	… 36
	農村社会学	… 37

区分	科目	ページ	
専門科目	総合農産科	植物生理	… 38
		病害虫と防除	… 39
		栽培施設	… 40
		園芸総論	… 41
		農業経営	… 42
		作物基礎	… 43
		作物栽培 I	… 44
		作物栽培 II	… 45
		作物栽培 II (きのこ)	… 46
		作物栽培 II (茶)	…
		露地野菜 I	… 47
		露地野菜 II	… 48
		施設野菜 I	… 49
		施設野菜 II	… 50
		花き栽培 1	… 51
		花き栽培 1	… 52
		花き栽培 2	… 53
		花き栽培 2	… 54
	果樹栽培 1	… 55	
	果樹栽培 1	… 56	
	果樹栽培 2	… 57	
	果樹栽培 2	… 58	
	総合畜産科	家畜栄養 1	… 59
		家畜栄養 2	… 60
		家畜飼養管理・畜産環境 1	… 61
		家畜飼養管理・畜産環境 2	… 62
		家畜育種	… 63
家畜解剖・生理		… 64	
家畜衛生 (2年)		… 65	
家畜繁殖		… 66	
家畜繁殖 (2年)		… 67	
飼料作物・水田飼料作		… 68	
飼料作物・水田飼料作 (2年)		… 69	
学科共通	畜産概論・経営	… 70	
	畜産経営演習 (2年)	… 71	
	家畜人工授精 (2年)	… 72	
	畜産加工実習	… 73	
	卒業論文	… 74	
	体験学習	… 75	
実習	… 76		
先進農業事例研修	… 81		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
経済活動と法律	必修

対象学生	単位数
1年全	1

担当
農業大学校
富田 一弘

■講義の目的・ねらい

日常生活に法律がどのように関わっているかを理解し、学んだ法律知識を将来の自分の仕事や私生活に活かすことができるようになることをねらいとします。

■具体的な到達目標

法律学で用いられる概念を適切に理解し、具体的事例について法的根拠をもって自分の意見を述べるができる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	5%
課題提出	10%
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 否 ノート 否 プリント 可

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	法律は暗記科目ではなく、日常生活に根付いた身近な制度です。具体的で身近な事例を題材に講義をおこないますので、常に自分のことに置き換えて考える癖をつけましょう。講義中はみなさん意見を求めたりと可能な限り双方向での講義を目指しています。怖がらずに議論に参加してみましょ。
注意事項	知識の整理のための講義資料(プリント)を配布します。事前に通読して講義に備えるよう願います。
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	法の種類とその適用について・法の存在理由	
2	民事と刑事・裁判制度・有効と無効	資料を事前通読
3	契約の考え方①売買契約	資料を事前通読
4	契約の考え方②賃貸借契約	資料を事前通読
5	損害賠償制度・不法行為	資料を事前通読
6	家族制度と法・婚姻・離婚・養子	資料を事前通読
7	相続・遺言・事業承継	
8	定期試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
くらしとことば	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
高野龍春

■講義の目的・ねらい

考えたり、気持ちを伝えたり、情報を獲得したりするための手段としてのことばの機能を理解し、生活における意思伝達の重要性を認識して、豊かな言語生活を営むための語彙力も含めてことばのちからを獲得する。

■具体的な到達目標

1. ことばに関する諸知識の理解によって、言語活用の能力を養う
2. 意思伝達の方法の理解によって、日常の言語活動を豊かにする。
3. 豊かな言語活動によって、対人関係のよりよい構築力を養う。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	○
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	15%
課題提出	15%
定期試験	65%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート (可)・否 プリント (可)・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	1. 授業の中心内容を必ず理解する。 2. 課題の意味を考察して練習する。 3. 不明な点は積極的に質問をする。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	予習項目
1	1. くらしとことばの意義 / 2. ことば自覚と音読演習	ことばの持つ役割や意義を考える
2	3. 話しことばと書きことば / 4. コミュニケーションの基礎	漢字の書取
3	5. よりよい伝達の方法 / 6. 聞くことと話すこと	同音異義語
4	7. ことばの基礎知識 / 8. 時事用語と農事用語	同訓異義語
5	9. 言語の歴史と文芸作品 / 10. 生活の中の慣習と言語	四字熟語
6	11. くらしの中の文芸表現 / 12. 日々のくらしと作品の実作	同義語・対義語
7	13. 生活と言語のまとめ / 14. 豊かな言語活動の展望	読み書き総合問題
8	定期試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
現代社会と文化	必修

対象学生	単位数
2	1

担当
農業大学校
佐伯公範

■講義の目的・ねらい

本校の所在地である豊後大野市についての歴史や文化を学ぶことを通して、理解を深め、愛着を持てることを狙っていきたい。

■具体的な到達目標

豊後大野市の現況や特色、歴史や文化を人物にスポットをあてて講義を進めていくので興味関心を持って理解を深めていきたい。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	40%
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	40%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義は資料を配布しながら行ないます。受講態度の評価は20%となっていますので注意。期末試験に関しては資料・ノートの参照は許可しませんので日常の講義を大切にしてください。また、事前に主要箇所をお知らせします。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	豊後大野市の特色、方言について	
2	豊後大野市のジオパークについて	
3	豊後大野市の歴史(原始から古代)	旧石器時代から古墳時代にかけて
4	豊後大野市の歴史(古代から中世)	奈良時代から平安時代にかけて
5	豊後大野市の歴史(中世、武士の登場)	豊後大野の三人の武将
6	豊後大野市の歴史(近世から近代)	江戸時代から明治時代にかけて
7	豊後大野市の歴史(近代・現代)	県立農業大学校と豊後大野市
8	評価テスト	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
農業と化学	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
中園 佳那

■講義の目的・ねらい

農業全般に関わる化学の基礎知識について理解させ、様々な農業分野の学習において理解を深めるための基礎知識を習得させる。

■具体的な到達目標

- 1 物質の基礎的な概念について理解する。
- 2 原子や分子の基礎知識を理解する。
- 3 化学反応の基礎知識を理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

新編 化学基礎(東京書籍)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	30%
課題提出	
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	毎回の小テスト
試験時の持込関係	教科書 可・否
	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	成績は試験と講義内容等により評価する。 本来は化学実験の実習を行うことが望ましいが、今回はできないため、様々な農業技術の学習において、化学の知識を応用して欲しい。
注意事項	
準備物	

■講義内容(1単位は7.5回、2単位は15回、3単位は22.5回の講義回数)

回数	講義内容	備考(課題等)
1	農業と化学の関わり	
2	物質の基礎	
3	原子とその構造	
4	化合物の基礎	
5	物質と化学変化	
6	酸と塩基	
7	酸化と還元	
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
体育	必修

対象学生	単位数
1・2	各1

担当
農業大学校
芦刈 章子

■講義の目的・ねらい

- 1 バレーボールというスポーツを題材に、身体の調子を整え、体力の維持・向上を図る。
- 2 チームスポーツであるバレーボールの特性を理解するとともに、仲間と連携した攻防でゲームを展開し、楽しむことができるようにする。

■具体的な到達目標

チームのメンバーとコミュニケーションをとり、チームの課題解決と個人の技術レベルの向上を目指し、互いに協力して、楽しく安全にゲームが運営できるようにする。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

なし

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	実技

成績評価	該当に%
出席状況	30%
受講態度	30%
課題提出	
実技	40%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	毎回の実技
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重品の管理を各自で行う事。・時間厳守で集合する事。 ・事故防止のため、貴金属類やアクセサリなどは身につけない事。 ・体調の悪いものは事前に報告し、途中で悪くなった者も報告する事。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	オリエンテーション・準備運動・ランニング・各種パス・パスゲーム・片付け・整理運動	
2	準備運動・ランニング・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス練習・サーブ練習・チーム別練習・片付け・整理運動	
3	準備運動・ランニング・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス練習・サーブ練習・チーム別練習・ゲーム・片付け・整理運動	
4	準備運動・ランニング・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス練習・サーブ練習・チーム別練習・ゲーム・片付け・整理運動	
5	準備運動・ランニング・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス練習・サーブ練習・ゲーム・片付け・整理運動	
6	準備運動・ランニング・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス練習・レシーブ練習・ゲーム・片付け・整理運動	
7	準備運動・ランニング・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス練習・レシーブ練習・ゲーム評価・片付け・整理運動	
8	準備運動・ランニング・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス練習・レシーブ練習・ゲーム評価・片付け・整理運動	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
情報処理1	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
魚住 武史

■講義の目的・ねらい

文書がコミュニケーションの重要な手段としている役割や、種類について理解し、文書作成ソフトの基本的な知識と技術を習得する。

■具体的な到達目標

- 1 文書の構成、構成要素の配置を理解し、文書作成ができる。
- 2 文書作成のソフトウェアの多様な機能を利用して、表やグラフを含む文書の作成ができる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

30時間でマスタOFFICE(実教出版)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
実技	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	
課題提出	
定期試験	
資格取得	80%
ラフティング	15%
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	○
その他	

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義には、教科書及びノートを持参すること。 分からないところがあれば次の講義までに復習・補習等を受けるなど、 実力を養成してください。
注意事項	資格取得(情報処理技能検定)の成績状況により評価される(80%)
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	1 パソコンの基本操作 キーボード操作の基礎・文書入力(タッチタイピングの練習)	
	2 データ入力の基礎	
2	3 基本的ワークシート編集	
	4 関数と計算式	
3	5 小数点とセル参照	
	6 罫線と行挿入	
4	7 グラフ	
5	8 条件判定と順位付け	
6	9 検索関数の利用	
7	10 エクセルのその他の機能	
8	11 資格取得対策	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
情報処理2	必修

対象学生	単位数
2	1

担当
農業大学校
魚住 武史

■講義の目的・ねらい

文書がコミュニケーションの重要な手段としている役割や、種類について理解し、文書作成ソフトの基本的な知識と技術を習得する。

■具体的な到達目標

- 1 文書の構成、構成要素の配置を理解し、文書作成ができる。
- 2 文書作成のソフトウェアの多様な機能を利用して、表やグラフを含む文書の作成ができる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

30時間でマスタOFFICE(実教出版)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	
課題提出	
定期試験	
資格取得	80%
ラフティング	15%
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	○
その他	

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義には、教科書及びノートを持参すること。 分からないところがあれば次の講義までに復習・補習等を受けるなど、 実力を養成してください。
注意事項	資格取得(情報処理技能検定)の成績状況により評価される(80%)
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	1 パソコンの基本操作 キーボード操作の基礎・文書入力(タッチタイピングの練習)	
	2 データ入力の基礎	
2	3 基本的ワークシート編集	
	4 関数と計算式	
3	5 小数点とセル参照	
	6 罫線と行挿入	
4	7 グラフ	
5	8 条件判定と順位付け	
6	9 検索関数の利用	
7	10 エクセルのその他の機能	
8	11 資格取得対策	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
農業総論	必修

対象学生	単位数
1	2

担当
農業大学校
各講師

■講義の目的・ねらい

作物・栽培・管理の基礎知識を理解し、自らが作物を栽培し生産できる態度を養う。また、農業における作物分野は、我が国の主食である稲作栽培を中心に学習するものであり、米の消費動向を学習しながら、現在の農業事情を学ぶ。
畜産・一般農業と畜産の関係、および主要家畜についての特徴や畜産物の利用について学ぶ。
林業・森林・林業についての一般的な事項を幅広く理解させ、基本的な知識を習得させる。
バイオ・バイオテクノロジーの知識と技術を理解し、農業の各分野で活用する能力と態度を育てる。

■具体的な到達目標

作物 1 農業の必要性と役割を理解させる。 2 自給率について正しい知識を持たせる。 3 作物栽培の現状と展望を理解させる。	畜産 1. 家畜が一般農業やヒトの生活にどのように関わっているか知識を深める。 2. 主要家畜について現状の飼育状況を知り、家畜の特徴や飼養方法について概要を学ぶ。	バイオ 1 バイオテクノロジーの意義と役割について理解する。 2 身近にあるバイオテクノロジーについて理解する。 3 組織培養などバイオ技術について理解する。	林業 1. 大分県の森林・林業の現状と課題を理解する。 2. 森林・林業の公益的機能について理解する。 3. 森林の造成及び維持管理のための基本的知識を習得する。 4. 樹木の特性及び特用林産物(きのこを除く)についての基本的知識を習得する。 5. 鳥獣被害対策や有害動植物について基本的知識を習得する。
---	--	--	---

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	講師により基準が異なります。各講師の平均点にて評価を算出します。
受講態度	
課題提出	
講師ごとの試験	
資格取得	
その他	
合計	

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
教科書	可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講師により講義回数と評価方法が異なりますので講義に必ず出席する事
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	1 農業の役割と動向 (1)農業の必要性と役割 (2)農業の現状と動向	作物
2	(3)食料自給率 (4)工業の犠牲になる農業	
3	2 作物 (1)人間生活と作物 (2)作物の特徴と分類	
4	1 家畜の利用と畜産の現状	畜産
5	2 畜産経営・家畜の生理	
6	3 主要家畜の飼養管理	
7	1 森林・林業の現状、森林の公益的機能及び森林造成・管理技術について	林業
8	2 森林の公益的機能とその維持管理及び鳥獣被害対策について	
9	3 特用林産物(きのこを除く)及び有害動植物について 修了試験実施	
10	1 意義と役割 (1)バイオテクノロジーとは (2)身近なバイオテクノロジー	バイオ
11	2 植物組織培養①	
12	3 植物組織培養②	
13	4 無病苗作出技術	
14	5 細胞融合技術と遺伝子組み換え技術	
15	6 期末試験実施	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
農業機械	必修

対象学生	単位数
農学部1年	1

担当
農業大学校
竹内 実

■講義の目的・ねらい

農業機械化の意義と利用の現状を理解し、機械利用の目的や農業機械の種類及び構造等、その基礎を理解する。

■具体的な到達目標

1. 農業機械の歴史や発達の背景を理解する。
2. 農業機械の構造や種類、その安全利用方法について理解する。
3. 原動機の特徴や構造及び動力に必要な燃料や潤滑油の種類について理解する。
4. 農作業別の農業機械の種類や特徴及びそのはたらきについて理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

農業機械の構造と利用(一般社団法人 農山漁村文化協会)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	原動機や作業機械の名称や構造及びその役割を理解すること。 毎回講義中に実施する小テストで当日の講義内容の復習と理解を深めること。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	○農業機械発達の歴史とその背景 ○農業機械と安全作業	
2	○トラクタの特徴と種類、構造	
3	○工具の名称や種類、使い方 ○トラクタへの作業機装着操作と安全作業	
4	○動力に必要な燃料と潤滑油 ○農業機械導入時に係る経済性とその計算方法	
5	○エネルギーと原動機 ○内燃機関の構造と特徴	
6	○農作業別農業機械の種類と特徴及びそれぞれの構造とはたらき	
7	○機械化計画と機械化体系 ○農作業安全の重要性について	
8	○これまでの振り返りと考査	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画 (シラバス)

講義科目名	必修・選択
農業機械演習	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
管澤 栄児

■講義の目的・ねらい

農業機械を操作し、その構造を理解するとともに基本運転操作と簡易な修理や農作業の安全確保 技能を習得させる。

■具体的な到達目標

- 刈払機の安全な取り扱いと効率的な使用方法を習得させる。
- 一般的な2サイクルエンジンの分解・組立を行い、構造と簡単な保守管理技能を習得させる。
- 工具の正しい取り扱いと仕業点検の方法を習得させる。
- トラクターの運転技能と作業機(ロータリー)の装・脱着、ほ場耕耘作業技能を習得させる。

■購入テキスト等 (書名・著書・出版社)

配付資料

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
演習	○

■成績評価	該当に%
出席状況	30%
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	
資格取得	
技能試験	50%
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
技能試験	○

■担当教官またはコースからメッセージ (注意事項・準備物)

メッセージ	多様化、大型化かつ複雑化する農業機械への知識と効率的、安全な作業技能を習得して欲しい。
注意事項	時間厳守
準備物	班編成とあわせて、準備物を指示する。

■講義内容 (1単位は7回、2単位は15回、3単位は23回の講義回数)

回数	講義内容	備考 (課題等)
1	1 刈払機の操作研修 (1) 刈払機の安全な取扱について (2) 刈払機の操作	講習後に演習を行う
2	2 エンジン分解・組立実習 (1) 農業機械の管理、修理等の基礎知識	講習後に演習を行う
3	(2) 2サイクルエンジンの分解及び組立て	
4	3 工具及び仕業点検 (1) 工具の正しい扱い	演習後に技能試験を実施
5	(2) トラクタの仕業点検	
6	4 トラクターの作業機脱着及び耕運技能 (1) 作業機(ロータリー)の装着・脱着	演習後に技能試験を実施
7	(2) トラクタ耕運作業技能	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
土壌肥料	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
小野 忠

■講義の目的・ねらい

土壌・肥料に関する基礎的な知識や土壌医検定3級に必要な知識を重点的に学び、作物栽培管理の基盤となる土壌管理技術に活用する。また、受験希望者は卒業までに3級検定試験合格を目標とする。

■具体的な到達目標

1. 作物の生育に及ぼす栽培環境と土壌環境を理解する。
2. 土壌の化学性診断結果と対策について理解する。
3. 土壌の物理性診断、生物性診断と対策について理解する。
4. 土壌・施肥管理の内容と方法について理解する
5. 土壌診断の進め方について理解する。
6. 土壌医検定試験3級に必要な知識の習得

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

土づくりと作物生産、土壌医検定研修会3級テキスト(一般財団法人 日本土壌協会)

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	70%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○ 理解度テスト
資格試験日	
その他	毎回。理解度テスト
	教科書 可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義はパワーポイントで行い、土壌肥料の基礎知識を学ぶとともに、2月の土壌医3級検定試験を目標にした重点講義を実施する。検定試験は土壌肥料の知識を基礎を受験希望者は1月に行う受験対策研修を受講し検定試験に備える。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	オリエンテーリング: 土壌肥料講座で学ぶ全体像を理解する。 ・土壌医検定試験 ・土壌肥料の用語解説 ・土壌診断の役割	
2	1. 作物の生育に及ぼす栽培環境と土壌環境 ・作物生育と環境 ・作物生育と土壌の役割 ・土壌の種類、土性と作物生産 ・作物生育に好ましい物理性と化学性 ・有機農産物	理解度テスト (10分間)
3	2. 土壌の化学性診断結果と対策(1) ・作物の必須元素 ・土壌診断項目について ・pHと養分吸収 ・ECと塩類障害・作物の肥料成分(窒素、リン酸、カリ)と窒素と作物生産	理解度テスト (10分間)
4	土壌の化学性診断結果と対策(2) ・水田で重視される診断項目(ケイ酸、鉄) ・微量元素の過剰、欠乏 ・生理障害	理解度テスト (10分間)
5	3. 土壌の物理性診断、生物性診断と対策 ・作物生育と物理性のポイント ・土壌水分 ・物理性の改善対策 ・土壌生物の種類と分類 ・土壌病害(微生物、センチュウ害)と対策	理解度テスト (10分間)
6	土壌・施肥管理の内容と方法 ・土壌改良 ・有機資材の種類と利用 ・堆肥施用と作物生育 ・土壌改良剤 ・肥料の特性 ・主要作物の生育特性と施肥管理	理解度テスト (10分間)
7	土壌診断の進め方 ・土壌断面調査 ・サンプリング方法 ・分析結果の診断と改善 大分県の養液栽培	理解度テスト (10分間)

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
農業政策総論	必修

対象学生	単位数
2	1

担当
農業大学校
太田 正樹

■講義の目的・ねらい

戦後の主な農業政策の背景と概要を理解する。また、わが国の農業政策の変遷を理解しながら、現在の社会情勢と食料・農業農村基本計画をはじめ、農業経営に影響する農業の現代的課題等について理解を深め、カーボンニュートラルやSDG'sといった最近の農業政策の方向性について学ぶ。

■具体的な到達目標

1. わが国の戦後の農政の変遷と背景および概要を理解する。
2. 新農業基本法、関連する法令等の概要を理解する。
3. 代表的な農業施策について理解する
4. 農業経営に影響する農業の現代的課題について理解を深める。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

配布プリント及びプレゼン

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	70%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
教科書	可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	国や県の農業政策は、農業経営に直結する農業関連の施策や制度となるので意義とねらいを理解すると共に、農業政策に敏感に関心を持つ姿勢を育み、就農後の経営に役立ててほしい。
注意事項	各講義のプリントをしっかりと保管し考査対策を。毎回講義開始時に出席をとるので、遅刻や欠講しないこと
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	農業政策とは	時間内小テスト
2	農地改革と農地法、新たな農地制度	時間内小テスト
3	農業基本法と食料・農業・農村基本法	時間内小テスト
4	農業経営基盤強化促進法、農地中間管理事業	時間内小テスト
5	中山間地域等直接支払制度	時間内小テスト
6	農業経営所得安定対策	時間内小テスト
7	みどりの食料システム戦略とSDG's	時間内小テスト
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
農畜産物流通	必修

対象学生	単位数
2年生	1

担当
農業大学校
農学部長

■講義の目的・ねらい

農畜産物流通について、流通そのものの基礎知識及び農畜産物流通のシステムについて理解するとともに、農畜産物流通を巡る諸問題について認識、理解し、流通の基本的知識を習得する。

■具体的な到達目標

1. 流通とは何か、流通の役割とは何かを理解する
2. 流通経路の基本4類型や流通機能について理解する。
3. 米、青果物、花き、畜産物などの流通の特徴や価格形成方法等を理解する。
4. 現在の農畜産物問題を安全性、表示、卸売市場、輸入増大、環境に絞って理解する。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

講師作成プリント

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	
課題提出	
定期試験	90%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
	教科書 可
試験時の持込関係	ノート 可
	プリント 不可

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	欠講は2回までとし、3回以上の欠席で受験不可
注意事項	出席は毎回行い、2回欠講した時点で担任に報告、出席指導を行う
準備物	

■講義内容（1単位は7.5回、2単位は15回、3単位は22.5回の講義回数）

回数	講義内容	備考（課題等）
1	・流通の社会的役割と仕組み	
2	・食品流通のしくみと価格形成	
3	・流通の基本概念と機能 ・米の流通	
4	・青果物の流通	
5	・食肉の流通 ・牛乳・乳製品の流通	
6	・花きの流通 ・小麦・大豆の流通	
7	・加工食品の流通 ・食品の安全性と行政	
8	・テスト	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
環境保全型農業	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
内田 多香子

■講義の目的・ねらい

慣行農業における化学農薬・肥料や家畜排泄物によって生じる環境負荷について学び、環境保全型の農業技術についてその実践方法を理解する。また有機農業について学習し、環境保全型農業の重要性等を考察することを目的とする。

■具体的な到達目標

1. 環境保全型農業とは何か、農業技術の歴史を理解する。
2. 消費者意識について理解する
3. 農業生産における化学的資材について、その功罪を考える
4. 有機農業とは何かを理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

配布資料等

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	○
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	ノート可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	プリント可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義中にプリントを配布するので資料綴りに整理すること。 グループワークを実施します。
注意事項	
準備物	

■講義内容(1単位は7.5回、2単位は15回、3単位は22.5回の講義回数)

回数	講義内容	備考(課題等)
1	環境保全型農業とは何か	
2	伝統的農業から近代農業へ	
3	化学的資材の功罪① 農業と農薬	
4	化学的資材の功罪② 農業と肥料	
5	有機農業とは何か	
6	化学的資材の使用を軽減させるための各種技術①	
7	化学的資材の使用を軽減させるための各種技術②	
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
農業気象	選択

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
管澤 栄児

■講義の目的・ねらい

気象に関する基礎的な知識を習得するとともに、農業生産と気象の関係について理解する。

■具体的な到達目標

- (1) 気象に関する基礎知識を習得する。
- (2) 農業生産における気象の重要性を理解する。
- (3) 国内、県内で発生した気象災害に付いて学び、その対策方法について検討する。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

配付資料

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	配布資料持込可

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	日々の天気予報に注意を払い、情報収集を習慣づけること。
注意事項	
準備物	

■講義内容（1単位は7回、2単位は15回、3単位は23回の講義回数）

回数	講義内容	備考（課題等）
1	農業気候（気候と農業に関する基礎知識について）	
2	農地の微気象（農地の微気象環境について）	
3	作物気象（微気象と作物生産について）	
4	気象災害（異常気象、農業気象災害とその対策について）	
5	施設気象（施設生産と環境調節について）	
6	農業気候・気象災害（地球環境問題と農業について）	
7	農業気候・作物気象（気象に関する情報とその利用）	
8	テスト	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
簿記基礎	必修

対象学生	単位数
1	2

担当
農業大学校
富田 一弘

■講義の目的・ねらい

複式簿記の基本原則を記帳を通じて修得し、農業経営における計数的な実態把握に活用する基礎的な能力を復習させる。

■具体的な到達目標

- 1 各種取引から支取帳への記帳方法並びに各勘定口座への転記方法について理解ができる。
- 2 貸借対照表の記入方法について理解ができ作成できる。
- 3 損益計算書の記入方法について理解ができ作成できる。
- 4 試算表の記入方法について理解ができ作成できる。
- 5 基本的な決算手続きを扱い、決算の意味や目的など、基礎的な知識と技術を習得する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

全経簿記能力検定試験公式テキスト3級,全経簿記能力検定試験公式問題集3級(ネットスクール出版)
/全経簿記検定試験PAST3級商簿【最新版】(英光社)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	
受講態度	
課題提出	
定期試験	100%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	○
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義には、教科書及びノートを持参すること。 電卓を各自で用意しておいてください。 分からないところがあれば次の講義までに復習・補修等を受けるなど、 実力を養成してください。
注意事項	
準備物	電卓(スマホは不可)

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	1 農業会計(1)会計とは(2)農業会計の特質	
2	2 複式農業簿記(1)簿記の基本(2)勘定科目と元帳①5勘定科目	
3	②元帳への記入(3)取引①各種取引②勘定	
4		
5	(4)仕訳と転記① 仕訳1 (現金や商品等の取引)	
6		
7	② 仕訳2 (現金化不足や預金等の取引)	
8		
9	③ 仕訳3 (商品3分法等の取引)④元帳への転記	
10		
11	(5)伝票による仕訳と転記①仕訳②元帳への転記	
12		
13	(6)試算表①合計試算表②残高試算表	
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
GAP	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
農林水産部地域農業振興課

■講義の目的・ねらい

農業生産工程管理(GAP)の基本的考え方や規範の内容並びに先進的な取り組みを学ぶことで、GAPの必要性を理解するとともに、実際の現場で応用できるような知識を習得する。

■具体的な到達目標

- ・GAPとは何かを理解する。
- ・GAPを導入するにあたってのチェックポイントを理解する。
- ・GAPの導入事例を学び、具体的に何をするのかを理解する。
- ・GAP導入の必要性を醸成する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成教材

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	
課題提出	20%
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	今日からGAPを知った顔で話そう(その1) GAPとは何か。その意義と魅力	
2	今日からGAPを知った顔で話そう(その2) GAPの考え方に基づき、農業の現場に潜むハザード(危害要因)を見つける	
3	大分県農業とGAP 農林水産部地域農業振興課広域普及指導班より	
4	環境への配慮	
5	土、水、施設等の管理、優良事例紹介	
6	JGAP模擬審査① 審査の仕組みに基づき、JGAP2022に基づく管理点と適合基準に沿って、日々の記録からGAPが運用できているか確認する	
7	JGAP模擬審査②	
8	筆記試験	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
スマート農業 概論	必修

対象学生	単位数
1年生	1

担当
県農林水産部、農機メーカー 先進農業経営者、農業大学校など

■講義の目的・ねらい

ICT等を活用したスマート農業の現状を認識し、現地導入事例や開発機械等の体験を通じて、その知識・技術を学ぶ。

■具体的な到達目標

農業の労働力不足や経営規模の大規模化に対応するため、急激に進みつつあるスマート農業技術に対する知識を深め、スマート農機を活用した技術習得を図る。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

講師作成プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	○
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	
課題提出	90%
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否
	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	・ 毎回講義終了後にレポート提出
注意事項	
準備物	

■講義内容（1単位は7.5回、2単位は15回、3単位は22.5回の講義回数）

回数	講義内容	備考（課題等）
1	スマート農業の現状について	農大職員
2	スマート農業の導入・活用状況及び課題について	地域農業振興課
3	G P S 田植機による実演	メーカー担当者
4	農業用施設の環境制御技術について	メーカー担当者
5	スマート農業機械を導入した農業経営について①	先進農業経営者
6	スマート農業機械を導入した農業経営について②	先進農業経営者
7	ロボットトラクターの実演について	メーカー担当者
8	ドローンによる操作、G P S トラクター等実演	農大職員

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
農業数学	選択1

対象学生	単位数
1・2	2

担当
農業大学校
各コース担当

■講義の目的・ねらい

農業経営、農業生産に必要な基礎的な数学について、事例にそった問題を解説しながら習得させる。

■具体的な到達目標

農業現場で実際に使う数学を理解する

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

農業大学校作成テキストを配布する。

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	指導教官は各コースが持ち回りとなります。 各種計算方法は現場で必須のものがたくさんあります。必ずわかるまで取り組みましょう。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	水田関係の事例に基づく問題の演習	講義順番については順不同です。
2	水田関係の事例に基づく問題の演習	
3	野菜関係の事例に基づく問題の演習	
4	野菜関係の事例に基づく問題の演習	
5	花き関係の事例に基づく問題の演習	
6	花き関係の事例に基づく問題の演習	
7	果樹関係の事例に基づく問題の演習	
8	果樹関係の事例に基づく問題の演習	
9	畜産関係の事例に基づく問題の演習	
10	畜産関係の事例に基づく問題の演習	
11	農業土木関係の事例に基づく問題の演習	
12	農業土木関係の事例に基づく問題の演習	
13	総合的な問題の演習	
14	総合的な問題の演習	
15	試験の実施	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
フラワーデザイン	選択1

対象学生	単位数
1・2	2

担当
農業大学校
木本聡子

■講義の目的・ねらい

フラワーデザインの基礎を習得させる
フラワーデザインの楽しさを知る。

■具体的な到達目標

- 1、フローラルテープの使い方、ワイヤリングの方法を理解する。
- 2、フォーカルポイント、メカニカルフォーカルポイントを理解する。
- 3、花束をスパイラルに組むことを理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

花と遊ぶ花を学ぶ(社団法人日本フラワーデザイナー協会)

講義形態	該当に○
一斉講義	
実習	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	40%
受講態度	15%
作品完成度	15%
定期試験	30%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	テキスト、はさみ、フローラテープ、ノート、筆記用具、メジャーを必ず持参してください
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	テキストを使って、フラワーデザインの概要と用具の種類を学ぶ。リボンワークを学ぶ。	
2	アレンジ、ドームを制作する。	
3	アレンジ、トライアングュラーを制作する。	
4	アレンジ、平行を製作する。	
5	花束の制作をする。	
6	ブートニアの制作をする。	
7	インテリアアレンジを制作する。	
8	アレンジ、水平を制作する。	
9	クリスマスリースを制作する。	
10	クリスマスアレンジを制作する。	
11	正月アレンジを制作する。	
12	アシストを使ったブーケを制作する。	
13	共同制作アレンジ。	
14	アレンジLシェイプを制作する。	
15	バレンタインのアレンジを制作する。フリー制作	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
応用英語	選択1

対象学生	単位数
1・2	2

担当
農業大学校
赤嶺照明

■講義の目的・ねらい

中学校及び高等学校における外国語学習の目標に示されている「基礎的能力」を確認し、英語学習の基礎を培うことをねらいとする。

■具体的な到達目標

1. 基礎的学習を重視すると共に、卒業後の進路に応じて、学力水準の向上を目指す。
2. 上記の目標を達成するために言語材料の選定と講義形式を工夫する。
3. 大学の農学部等の編入学試験を受験するための対策を講じる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

Watching News 最新版 浜島書店

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	10%
定期試験	70%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	各自の進路目標にしたがって一回一回を大切に組み組んで欲しい。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	〈英語 I〉基礎的文法事項の整理	
2	①現在形・過去形・未来形	
3	②文の種類	
4	③名詞・代名詞・助動詞	
5	④形容詞・副詞・比較	
6	⑤完了形・受動態	
7	⑥不定詞・分詞・動名詞	
8	⑦関係代名詞・接続詞	
9	読解力を養成するシステムリーディング1課	
10	” 2課	
11	” 3課	
12	” 4課	
13	” 5課	
14	” 6課	
15	” 7課	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
基礎数学	選択2

対象学生	単位数
1年該当者	2

担当
農業大学校
淵上正則

■講義の目的・ねらい

数学の基礎を再確認し、農業に関わる基礎的数学の知識を理解・取得させる。

■具体的な到達目標

- 1 農業経営に必要な最小限の数学知識を理解させる。
- 2 農業場面での数学の利用方法を習得させる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

自主作成教材

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	15%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	成績は試験と出席状況等により評価する。専用ノートを学校で準備する。
注意事項	学期はじめの学力試験で一定点数以下の者が対象
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	1 小テスト (1)学生の実力把握とアンケート	
2	2 4則計算 (1)正負の加減乗除 (2)文字式の計算	
3	3 分数計算 (1)最大公約数と最小公倍数 (2)分数の4則計算	
4	4 1次方程式 (1)方程式の解き方 (2)連立方程式の解き方	
5	5 練習問題 (1)倍数、分数の応用 (2)1次方程式の応用	
6	6 練習問題 (1)百分率の応用	
7	7 因数分解と平方根 (1)展開と因数分解 (2)平方根の解き方	
8	8 関数 (1)1次関数とグラフ (2)2次関数とグラフ	
9	9 単位の確認 (1)長さ、面積、体積 (2)パーセントの利用	
10	10 応用問題練習 (1)施肥量計算	
11	(2)栽植密度計算	
12	(3)農薬の希釈倍率計算	
13	(4)まとめ	
14	11 利息計算 (1)利息の計算方法	
15	12 全体まとめ (1)応用問題の練習	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
販売促進力向上講座	選択2

対象学生	単位数
1・2	2

担当
農業大学校
魚住 武史

■講義の目的・ねらい

広告や販売促進など販売に関連する知識や技術を習得するとともに、販売活動に主体的、創造的に行う能力と態度を育てる。

■具体的な到達目標

1. 販売所等において広告と販売促進が果たす役割とその意義を理解する。
2. 広告や販売促進に関する知識と技術を習得する。
3. マーケティングにおける生産者と消費者間のコミュニケーション活動の果たす意義や役割を理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

なし

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義には教科書及びノートを必ず持参してください。 わからないところがあれば必ず次の講義までに復習したり補習を受けるなどして実力を養成してください。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	1 販売促進の役割 (1)販売促進の役割と内容	
2	(2)販売促進と消費者ニーズの関係 (3)販売とターゲティング	
3	(4)ブランドイメージの確立	
4	2 消費者行動の理解 (1)消費者行動とは何か	
5	(2)消費者行動に影響を与える要因	
6	3 販売促進の戦略と具体的活動 (1)販売促進の戦略とは何か	
7	(2)セールスプロモーション	
8	4 広告の種類と分類 (1)広告の概要と機能	
9	(3)POP作成1 (4)POP作成1	
10	5 広報の種類と効果的方法 (1)ネット販売の状況	
11	(2)ネット販売の効果と方法 (3)Webサイトの作成1	
12	(4)Webサイトの作成2 (5)Webサイトの作成3	
13	(6)コンプライアンス及び危機管理	
14	6 店舗立地とレイアウト	
15	7 販売員活動 まとめ	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
生物	選択2

対象学生	単位数
1・2	2

担当
農業大学校
大島和伸

■講義の目的・ねらい

高校までに学習した生物学の基礎的な知識を確認しながら、生物が共通して持つ特徴を理解し、生物に対する科学的な知見や考え方を身につけるとともに命の意味について考える。

■具体的な到達目標

基本的な講義内容を理解できる。生命が共通して持つ特徴を説明できる。農業が生物を扱う職業であることを理解し、科学的な態度で農業をとらえることができる。自分自身と他の生物をともに尊重する姿勢を養う。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

授業時に配布するプリント

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	20%
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート <input checked="" type="radio"/> 可・否 プリント <input checked="" type="radio"/> 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	生きているということは、心臓が動いているとか呼吸しているだけではありません。私たちや動植物などが「生きている」とはどういうことなのか、深く考えてみましょう。
注意事項	毎回授業後の課題提出があり、評価に加えます。
準備物	筆記用具

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	1. 細胞からなる「動物・植物・菌・細菌・ウイルス」	
2	2. 増殖する「DNAの複製と分裂」	
3	2. 増殖する「生殖と発生」	
4	3. 子は親に似る「遺伝の法則」	
5	時事生物1	
6	4. 育つ「食べて成長する」	
7	4. 育つ「光を受けて育つ」	
8	5. 反応する「刺激を受容する」	
9	5. 反応する「学習して行動する」	
10	時事生物2・前期試験	
11	6. 自己を保つ「ホルモンと免疫」	
12	7. 多様である「生物の分類」	屋外活動あり
13	7. 多様である「生物の集団・生態系」	
14	8. 進化する「進化の理論」	
15	時事生物3・後期試験	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
農業土木と水利	選択3

対象学生	単位数
1・2	2

担当
農業大学校
山本文博

■講義の目的・ねらい

農業土木と農業水利の基礎知識を習得すると共に、これからの農業・農村整備事業は生産基盤だけでなく、生活環境、自然環境の整備、保全管理であることの理解を深める。

■具体的な到達目標

農業・農村における農業土木の果たす役割を理解し、今後の展開について考えさせる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成テキスト

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	○
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	15%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
教科書	可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	農地の整備や水利施設・農道等の造成された歴史を知り、農業土木が農業生産に果たしてきた役割と重要性を理解すること。さらに、農業・農村の持つ多面的機能を理解し今後、農業者として自信を持って貰いたい。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	1 農業土木とは何か、農業土木と農業水利の概要について理解する(1) 農業土木の役割と特質(2) 農業土木の歴史(3) 農業にとって不可欠な水と土について	
2	2 大分県における農業水利施設の特色について理解する(1) 大分県における水環境の保全と水文化の発展について(2) 大分県の歴史的農業水利施設について	
3	3 作物にとっての灌漑技術と方式についての基礎的な考え方を理解する(1) 稲作を前提とした水田灌漑と用水計画の概要について	
4	(2) 世界的に主流の畑地灌漑と我が国で行われている畑地灌漑方式の基礎的な考え方について	
5	4 農業水文学と地域環境について理解する(1) 水循環と水資源について(2) 食料問題と農業土木、パーチャルウォーターについて	
6	5 現地研修(3の水利施設システムとしての師田原ダム、大野原地区の畑地灌漑について現地で理解する)	
7	6 農地・農業用施設の災害復旧事業の仕組みと補助制度について理解する(1) 風水害、干害等の農業災害の原因と復旧について	
8	7 農業・農村整備事業の役割と仕組みを理解する(1) 土地改良法の目的と手続きについて(2) かんがい排水事業の概要(3) 圃場整備事業の概要	
9	8 前期内容の復習とテスト	
10	9 農道整備事業、農地防災、保全事業の概要と仕組みを理解する	
11	10 農業・農村の多面的機能について理解する(1) 中山間地域、棚田について(2) 土地改良区の役割と施設の維持管理	
12	11 測量(長さの基準、単位、方法)の基礎を理解し、応用する(1) 長さを測る(2) 面積を測る(3) 体積を測る(4) 高さを測る	
13	(5) 測量成果品の多面的活用(6) 地理情報(7) 地図の見方	
14	12 工程管理、ネットワーク手法による管理について理解し、農作業の手順 スケジュールに応用する	
15	13 講義内容の総合復習、整理 まとめのテスト	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
危険物資格取得講座	選択3

対象学生	単位数
1・2	2

担当
農業大学校
田中・篠田

■講義の目的・ねらい

4類危険物の種類とその特性について正しく理解し、適正な取り扱いにつて習得する

■具体的な到達目標

危険物乙4類取扱者資格の取得

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

危険物取扱者必携(法令編・実務編)、危険物取扱者試験例題集(乙種第4類)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	15%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	○
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	11月下旬の資格試験で全員合格を目指しましょう。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	危険物取扱者資格の概要／基礎的物理学および基礎的化学1熱とその特性	
2	基礎的物理学および基礎的化学2物質の状態変化とエネルギー／物質の変化	
3	基礎的物理学および基礎的化学3酸化と還元／有機化合物	
4	燃焼と消火に関する基礎知識 燃焼の三要素／燃焼範囲と引火点・発火点／消火のしくみ	
5	基礎的物理・化学と燃焼・消火の復習／練習問題解説	
6	危険物の性質／第4類以外の危険物の概論／危険物に共通する性質と状態による分類	
7	第4類危険物の概論／第4類危険物の物性と火災の予防／主要な品目各論1(特殊引火物、第1石油類)	
8	第4類危険物の概論／主要な品目各論2(第2～第4石油類、アルコール類、動植物油類)	
9	消防法 危険物の貯蔵および取扱いの制限／製造所等の設置から廃止までの手続き	
10	消防法 製造所等における保安制度／危険物取扱者の権限、危険物保安監督者	
11	危険物の規制に関する政令 貯蔵所と取扱所／製造所の位置、構造および設備の基準	
12	危険物の規制に関する政令 給油取扱所の基準／地下タンク貯蔵所、移動タンク貯蔵所	
13	危険物の規制に関する政令・規則 貯蔵および取扱いの技術上の基準／危険物の運搬に関する基準	
14	危険物の規制に関する規則 消火施設の区分と適応性／掲示板と標識	
15	資格試験対策(模擬試験)	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
基礎英語	選択3

対象学生	単位数
1・2	2

担当
農業大学校
佐保久代

■講義の目的・ねらい

中学校及び高等学校における外国語学習の目標に示されている「基礎的能力」を確認し、英語学習の基礎を培うことをねらいとする。

■具体的な到達目標

1. 基礎的学習を重視すると共に、卒業後の進路に応じて、学力水準の向上を目指す。
2. 上記の目標を達成するために言語材料の選定と講義形式を工夫する。
3. 大学の農学部等の編入学試験を受験するための対策を講じる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

Watching Light 最新版 浜島書店

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	10%
定期試験	70%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	読解力・表現力等、英語の総合力を養成するためのレッスン " Lesson 1	
2	" Lesson 2	
3	" Lesson 3	
4	" Lesson 4	
5	" Lesson 5	
6	" Lesson 6	
7	" Lesson 7	
8	" Lesson 8・9	
9	" Lesson 10・11	
10	" Lesson 12・13	
11	" Lesson 14	
12	コミュニケーション英語・リスニング(映画を使って)	
13	コミュニケーション英語・リスニング(映画を使って)	
14	期末試験	
15	期末再試験	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
組織マネジメント論	選択4

対象学生	単位数
1・2年	1

担当
農業大学校
松隈久昭

■講義の目的・ねらい

組織マネジメントとは、組織の目標を設定し、組織構造を決め、人材の育成を行い、組織の成果を評価することである。講義では、モチベーション、組織構造、組織文化などの理論を説明する。

■具体的な到達目標

組織の構造を学び、人材育成をする方法を習得すること。また、組織を運営する上で求められるインセンティブ向上の方法や組織内のコンフリクトの解消方法を身に着けること。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講義時に指示する。

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	
課題提出	
定期試験	90%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	私語をしないこと。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	予習項目
1	モチベーションの定義	動因と誘因
2	モチベーションの維持・向上の方法	外発的動機と内発的動機など
3	モチベーションの諸理論	マグラガーのX理論、Y理論、モデリング効果など
4	インセンティブとコンフリクト	インセンティブの向上、コンフリクトの解消方法
5	組織構造と組織文化	組織構造の種類と内容、組織文化の形成
6	能力開発と組織開発	職場内教育、キャリア形成
7	組織マネジメントのまとめ	ワークライフバランスなど
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
ビジネスマナー	選択4

対象学生	単位数
1・2年	1

担当
農業大学校
本多寿子

■講義の目的・ねらい

- ① 基本的なマナーを習得し、コミュニケーションを取ることができる
- ② 個々に感覚が違うことを理解し、様々な場面・相手に対して的確な言動が取れる

■具体的な到達目標

- ① 自分の表情、声のトーンに意識する
- ② 感じの良い挨拶、お辞儀ができる
- ③ 場面に応じた言葉遣いができる

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

必要に応じてプリントを配布する

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	○
小テスト	
その他	○実習

成績評価	該当に%
出席状況	
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	50%
資格取得	
その他	30%
合計	100%

その他は学習到達度

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
教科書	可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	優:基本的なビジネスマナーを習得し、場に応じた確に体现できる 良:基本的なビジネスマナーを習得し、体现できる 可:基本的なビジネスマナーを理解し、体现しようと努力できる 不可:基本的なビジネスマナーを理解できる
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	1. 自己把握、自己開示、第一印象がもたらす影響について	
2	2. 社会人としての基本行動、立ち居振る舞い	
3	3. 指示の受け方、報告の仕方	
4	4. 訪問のマナー、来客応対	
5	5. 電話応対 (かける・うける基本マナー)	
6	6. 電話応対 (うける応用)	
7	7. 総合学習	
8	8. 実技試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
食品管理と加工	選択

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
村田 勝

■講義の目的・ねらい

食品の流通・加工全般に関する基礎的知識と加工品をつくるポイントを習得するとともに、各種食品の原材料特性、具体的な加工品の製造技術等を習得する。

■具体的な到達目標

1. 食品加工の意義を理解する。
2. 食品の流通、品質保持技術、食品衛生の基礎的な知識を習得する。
3. 個々の食品に関する特性、加工技術に関する知識を習得する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成プリント

参考図書:農産加工の基礎(農文協)・誰にでもできる農産物加工(農水産物加工総合 指導センター)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
教科書	可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	各食品に共通する事項と個別の食品について総括的に解説します。個別食品については、食品製造の現場で役に立つ実践的な食品加工技術を習得してください。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	食品の加工とは	
2	地産地消と加工品づくり	
3	農産物の流通と貯蔵	
4	食品衛生	
5	食品加工技術各論 1:発酵食品	
6	食品加工技術各論 2:農産物加工技術	
7	食品加工技術各論 3:畜産物加工技術	
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
土壌肥料演習	選択

対象学生	単位数
2	1

担 当
農業大学校
小野 忠

■講義の目的・ねらい

一年次の土壌肥料の知識に加えて土壌調査や簡易土壌分析の実習体験、さらに検定試験に必要な知識を重点的に学ぶ。希望者は土壌医検定3級合格を目指す。

■具体的な到達目標

1. 分析に必要な知識や分析機器の使用法の習得
2. 調査方法・用紙への記載方法、データの考察
3. 土壌医検定3級に必要な知識や技術の習得
4. 土壌医検定試験3級合格

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

自主作成教材

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	
グループ活動	○
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	20%
課題提出	70%
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	毎回。理解度テスト
	教科書 可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	2月中旬の土壌医3級検定試験を目標に、土壌断面調査や簡易土壌分析等の実習およびパワーポイントを使用した講義を通して必要な知識を身に付ける。さらに、1月に行う受験対策研修を受講し検定試験に備える。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	ガイダンス(内容・評価)	
2	断面調査、土壌分析(pH,EC)、三相分布	
3		
4	土壌調査のとりまとめ、土壌医検定試験対策研修(作物生育と土壌の役割)	
5		
6	土壌医検定試験対策研修(作物生育と土壌の化学性、土壌の物理性と対策)	
7		
8	まとめ	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
農業簿記	選択

対象学生	単位数
2年選択生	1

担当
農業大学校
原田孝雄

■講義の目的・ねらい

複式簿記は、基本原理に基づいて記録・計算・整理し、経営成績と財政状態を明らかにする記帳技術であり、しっかり理解・習得することにより、農業簿記検定3級程度の知識を習得できるようにする。また、広く普及しているパソコン簿記の使用法を体験する。

■具体的な到達目標

- 1 簿記の役割を理解し興味を持つこと。
- 2 農業簿記は様々な取引があるので多様な事例から仕訳の方法を習得する。
- 3 簿記一巡の手続きを理解する。
- 4 転記や試算表、棚卸、減価償却費の計算、決算書の作成などを理解する。
- 5 ソリマチ農業簿記ソフトを使った演習を数回行い、パソコン簿記の素晴らしさを体験する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

大原出版「農業簿記検定 教科書 3級」

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	20%
小テスト	40%
定期試験	30%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	授業には、テキスト及びノート、電卓を持参すること。理解を高めるため演習問題を多く入れ、反復練習をする。わからないところは、いつでも質問し、疑問を残さないようにすること。授業計画は、学生の理解度に合わせ変更する。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	簿記基礎の再確認と農業簿記の概要	
2	経営成績と財政状態	
3	簿記一巡の手続き 取引と仕訳	
4	〃 仕訳の事例	
5	〃 仕訳と転記 仕訳帳と総勘定元帳	
6	勘定科目	
7	収益・費用の記帳方法	
8	流動資産	
9	固定資産 減価償却の計算	
10	流動負債・固定負債・資本金	
11	棚卸など決算手続きと決算書の作成	
12	総合演習 その1	
13	総合演習 その2	
14	ソリマチ農業簿記を使った演習(1)	
15	ソリマチ農業簿記を使った演習(2)	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
消費者ニーズとマーケティング	選択

対象学生	単位数
2年選択生	1

担当
農業大学校
JAおおいた・おおいたブランド推進課

■講義の目的・ねらい

受講者が農産物の消費者ニーズを分析し、適切な商品開発やブランド化を検討できるようになることです。また、マーケティングと流通システムの役割も理解して下さい。

■具体的な到達目標

- 1 近年の消費者行動を分析し、農産物に対するニーズを把握できるようになること。
- 2 食品メーカー、卸・小売業、JAなどの役割を理解すること。
- 3 ブランド化の方法、食品リサイクル法などの環境問題への対応を学ぶこと。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	消費者行動・心理を理解し、農業の実践に役立てることができるように学んでください。 出席が少ない場合は、評価しないので注意すること。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	農林水産部おおいたブランド推進課	
2	農林水産部おおいたブランド推進課	
3	農林水産部おおいたブランド推進課	
4	JAおおいた	
5	JAおおいた	
6	JAおおいた	
7	定期考査	
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
企業経営論	選択(特別)

対象学生	単位数
2年	1

担当
農業大学校
阿部 芳久

■講義の目的・ねらい

自らの生活、事業が直面する課題は何か、問題は何か、行うべき意思決定は何か、そしてそれらの課題、問題、意思決定に適用すべき基本と原則何かを徹底して考え、自らの前にある機会と挑戦を捉え、事業経営に必要な知識と実践方法を身につける

■具体的な到達目標

1 企業経営の基本と原則の知識を理解し、実践面での課題を提示できる
 2 学校生活の中で生じる、自らの課題の発見と解決にその知識を適用できる
 3 今後の学校生活や職業生活の中で、問題に直面した時の参考書として使えるように、本テキストを読み込む

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

エッセンシャル版 マネジメント 基本と原則 (P.F.ドラッカー著 ダイヤモンド社)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	30%
課題提出	
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	授業では、一方的な講義によらず、双方向での質疑応答やクラス討議によって知識の習得と理解、応用力を身につけます。単に講義を聞き、ノートをとるだけではなく、積極的な授業参加をお願いします
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	マネジメントの役割 企業の成果について理解する 事業の目標、戦略計画について理解する	
2	仕事と人間 人間関係、モチベーション等、ヒトに係る問題について理解する	
3	マネジメントの必要性 マネジャーとは何か、マネジャーの仕事、マネジメント開発とは何かを理解する マネジメントの技能 意志決定、コミュニケーション、管理、経営科学を理解する	
4	組織 経営組織の創り方、運営の仕方や能力開発について理解する	
5	トップマネジメント トップマネジメントの役割を理解する	
6	自己開発 学び方、効果的な仕事の進め方等、自己開発の基本を学ぶ	
7	試験	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
アグリビジネス論	選択

対象学生	単位数
2年選択生	1

担当
農業大学校
羽野徳文

■講義の目的・ねらい

農業に対する自分の夢を実現するために必要な経営感覚を学び、持続性のある儲かる農業を実現するビジネスモデル/プランを実践的に構築する能力を習得する。

■具体的な到達目標

1. 農業経営者として必要な経営感覚と資質を体感する。
2. ビジネスプラン策定に係る要素と手法を理解する。
3. マーケティングの手法を活用して、どこにお客がいるかを探し出す。
4. 原価計算・財務諸表を実践的に理解する。
5. 儲かる農業に向けたビジネスモデル/プランの提案をする

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

当日配布するテキストおよび宿題(講師作成)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	○
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	
受講態度	
課題	50%
発表	50%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	チームあるいは個別に取り組むテーマを決め、自らが経営者となってビジネスプランを作成してもらいます。 その手法を、各自の取組み農業に置き換えて持続可能な農業経営のポイントに気付いていただきたい。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	オリエンテーション	
2	ビジネスモデルの構築。マーケティングの実践。	
3	販売計画の策定。販路、マーケットイン・プロダクトインなどの戦略について	
4	農産物の生産計画と原価計算について	
5	財務諸表による経営分析。資金調達について。	
6	ビジネスプランの策定を行い、事業計画書への落とし込み。	
7	ビジネスプランの策定を行い、事業計画書への落とし込み。	
8	ビジネスプランの発表会。意見交換。質疑応答。	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
農業経営分析	選択

対象学生	単位数
2年選択生	1

担当
農業大学校
農林水産部地域農業振興課

■講義の目的・ねらい

農業経営の規模拡大や多様化が進む中、資材などの生産コストが高まるなど経営環境は厳しさを増しており、これまで以上に農業経営管理の重要性は増大している。
本講義においては、経営分析手法の基礎と資金管理手法を学習する。また、経営計画の策定演習等を通じて、基礎的スキルが身につくよう講義を実施する。

■具体的な到達目標

- ・経営分析手法について理解する
- ・経営管理の重要性について理解する

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講義ごとに資料を配付

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	
グループ活動	○
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	35%
受講態度	15%
小テスト	50%
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	グループ演習を行いますので、できるだけ欠席しないようお願いします。
注意事項	毎回小テストを実施する。
準備物	電卓を持参

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	経営分析の基礎1 ・経営分析とは ・実数分析とは	
2	経営分析の基礎2 ・実数分析とは ・収益性分析・安全性分析・活動性分析・生産性分析・成長性分析	
3	生産原価 ・原価とは ・部門別管理	
4	損益分岐点分析 ・損益分岐点とは ・損益分岐点を計算してみよう	
5	キャッシュフロー分析	
6	ライフプランを考慮した経営計画	
7	青年農業者から経営を学ぶ 大塚 勇太 氏(臼杵市・たばこ・自営(経営主))	
8	研修を振り返って レポート作成	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
農村社会学	選択

対象学生	単位数
2年選択生	1

担当
農業大学校
森 宗一

■講義の目的・ねらい

農業・農村の現状と抱える問題について理解し、地域の再生をいかに進めていくかを考えていく。政策のあり方や農業 経営者として(あるいは集落の一員として)の振る舞い方を含め、自らの地域の内発的発展を実現する理論と実践(基準)を身に付けることを目的とする。

■具体的な到達目標

農業・農村のかかえる今日的課題を正確に把握、分析できる力を備えるとともに、将来に向けて有効な方策を的確に判断、樹立、実践できる能力を身につけることを目標とする。
グループに分かれ将来自営就農目ざすことを前提とし、農業・農村の活性化にむけた取り組みについて検討する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	○
視察	
グループ活動	○
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	
資格取得	
その他	80%
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義は配布資料に基づいて進めます。ゼミ形式で課題を用意して討論の場も設定したいと思います。積極的な取り組みを期待します。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	現代農村を学ぶ意義	
2	現代における農村の社会的構築	
3	都市と農村の交流と協働	
4	研究論文の作成	
5	研究論文の作成	グループワーク
6	研究論文の作成	グループワーク
7	研究論文の作成	グループワーク
8	研究論文の発表	グループワーク・発表

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
植物生理	必修

対象学生	単位数
総合農産1年	2

担当
農業大学校
千鳥 安雄

■講義の目的・ねらい

植物の特性、環境要因、栄養、成長等の生理的機能を、作物の栽培技術と関連づけて習得する。

■具体的な到達目標

植物の生理的機能を植物構造と結びつけながら理解し、作物への栽培管理技術がどのように植物に影響するか理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	20%
小テスト	10%
定期試験	65%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否
	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	
注意事項	講義には、テキスト、配布資料を毎回必ず持参すること。
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	植物生理学とは	
2	植物と光	
3	植物と水	
4	植物と温度	
5	植物と無機塩類	
6	肥料欠乏と症状	
7	植物の遺伝子	
8	発生と成長	
9	水ポテンシャル	
10	植物の運動	
11	植物ホルモン	
12	光周性	
13	光合成と代謝	
14	光による反応	
15	呼吸とエネルギー利用	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
病害虫と防除	必修

対象学生	単位数
総合農産科2年	1

担当
農業大学校
財前 裕一

■講義の目的・ねらい

病害虫について基本的な生態を知り、効率的な防除方法について理解を深める 主要な病害虫の被害の診断や対策のポイントを理解する
--

■具体的な到達目標

1. 病害虫の発生生態と防除のポイントを理解する 2. 農薬に関する基礎知識を身につけ、併せて関係法令についても理解する 3. 総合防除の取り組みの重要性を理解する
--

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

すぐわかる病害虫ポケット図鑑

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	
受講態度	
課題提出	
定期試験	100%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 不可
	ノート 不可
	プリント 可

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	パワーポイントによる一斉授業（1～7） 講義ごとにプリントを配布（試験は各講義で配布したプリントのみ持込み可）
注意事項	学力試験 100%
準備物	すぐわかる病害虫ポケット図鑑（農文協）

■講義内容

回数	講義内容	備考（課題等）
1	イントロダクション 病害虫発生の要因をつかむ	
2	敵を知る①病原体 糸状菌／細菌／ウイルス／伝染経路／防除の基本	
3	敵を知る②害虫 加害のタイプ／昆虫／ダニ類／センチュウ／防除の基本	
4	農薬の知識 作用機構・農薬の種類等	
5	化学的農薬だけに頼らない防除法 ①物理的防除 ②生物的防除	
6	化学的農薬だけに頼らない防除法 ③耕種的防除 化学的農薬の有効活用と安全性	
7	ドリフト対策 I P M防除	
8	試験	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
栽培施設	選択

対象学生	単位数
2	1

担当
農業大学校
管澤 栄児

■講義の目的・ねらい

栽培施設の構造及び栽培機器・資材の特徴を理解し、それらを活用した施設内環境制御技術について学習する。

■具体的な到達目標

具体的な到達目標

1. 栽培施設の種類と構造を理解する。
2. 栽培機器及び栽培資材の特徴を理解する。
3. 施設内環境制御技術を理解する。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

配付資料

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	配布資料持込可

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	日々の圃場実習の中で、栽培施設の構造や作動状況について気を配ること。
注意事項	
準備物	

■講義内容（1単位は7回、2単位は15回、3単位は23回の講義回数）

回数	講義内容	備考（課題等）
1	施設園芸の現状と施設の種類と形式（国内の施設栽培の現状と施設の種類と形式）	
2	被覆資材（施設の被覆資材の種類および特性）	
3	施設内の環境制御技術（① 温度、光環境制御技術について）	
4	施設内環境制御技術（②炭酸ガス濃度、湿度制御技術について）	
5	栽培管理機器・装置（省力化・快適化技術、かん水機器・装置について）	
6	養液栽培と植物工場（養液栽培とそれを活用した植物工場システムについて）	
7	施設園芸とICT利用（施設園芸におけるICT利用技術について）	
8	テスト	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
園芸総論	必修

対象学生	単位数
総合農産科2年	2

担当
農業大学校
研修部長 手嶋康人

■講義の目的・ねらい

園芸作物生産・流通などに関する広範な知識について理解させる。

■具体的な到達目標

- 1.園芸作物の生理、生体を理解させる。
- 2.園芸作物の流通について理解させる。
- 3.園芸作物の色々な機能性について理解させる。
- 4.園芸作物の総合的な役割について理解させる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

園芸学(文永堂出版)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	40%
受講態度	10%
課題提出	50%
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	点数は、出席状況40点、受講態度10点、課題提出50点の合計100点とする。課題提出は、毎回、小テストを実施する。小テストは、欠席の場合0点とする。
注意事項	出席状況は、1回欠席するごとに10点減点となる。再試験は実施しない。
準備物	教科書、ノート、筆記用具

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	園芸学の定義	
2	園芸作物の種類と分類	
3	園芸作物の形態(栄養器官・生殖器官)	
4	園芸作物の生理(発芽、休眠、光合成等)	
5	園芸作物の生理(花芽形成、種子の形成等)	
6	園芸作物の品種の改良方法と種苗の繁殖方法	
7	園芸作物の発育に伴う生理生態的特徴と栽培管理(野菜)	
8	園芸作物の発育に伴う生理生態的特徴と栽培管理(果樹)	
9	園芸作物の発育に伴う生理生態的特徴と栽培管理(花卉)	
10	園芸作物の生産施設と流通施設	
11	園芸作物の鮮度保持方法	
12	園芸作物に含まれる栄養成分と機能性成分	
13	園芸の新しい展開領域	
14	環境にやさしい園芸生産	
15	園芸学の総括	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
農業経営	必修

対象学生	単位数
総合農産科2年	1

担当
農業大学校
農学部長

■講義の目的・ねらい

農業を取り巻く情勢の変化と経済活動を行う個々の農業経営のしくみ及びコスト管理とマネージメントの必要性や、経営計画の作成について理解する。

■具体的な到達目標

1. 日本農業の特徴について把握する。
2. 農業経営の組織と運営について理解する。
3. 農業経営の実践方法を理解する

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

農業経営概論（実教出版）

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	20%
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可
	ノート 可
	プリント 不可

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	欠講は2回まで、3回以上欠講すると受験できない
注意事項	出席は毎回行い、2回欠講した時点で担任へ報告、出席指導を行う
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考（課題等）
1	・農業の動向と農業経営	
2	・農業経営の主体と目標	
3	・農業経営の理念と分析	
4	・農業経営の運営	
5	・農業のマーケティング	
6	・農業経営の社会環境	
7	・農業経営の診断	
8	・これまでの振り返りとテスト	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
作物基礎	必修

対象学生	単位数
1年水田野菜コース	1

担当
農業大学校
内田 多香子

■講義の目的・ねらい

水稻栽培の歴史的経過、生理・生態及び利用、流通について学習し、水稻の基礎的な知識・技術の習得を図る。
また、重要な転作作物である麦、大豆について、基本的な知識を習得する。

■具体的な到達目標

- 1 水稻の歴史的な位置づけについて理解する。
- 2 水稻を中心に作物の生理・生態について理解する。
- 3 水稻栽培における基本知識・基本技術を習得する。
- 4 麦、大豆の基本知識を習得する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

配布パンフレットおよび資料等

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	5%
課題提出	10%
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・ <input checked="" type="radio"/> 否
	ノート 可・ <input checked="" type="radio"/> 否
	プリント 可・ <input checked="" type="radio"/> 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義中にプリントを配布するので資料綴りに整理すること。 随時課題を出します。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	稲作と米の利用	
2	イネの一生と成長	
3	水稻栽培の作業体系	
4	米の流通と今後の稲作経営	
5	麦類の種類と特徴、麦類の一生と生育	
6	ダイズの特徴と利用、ダイズの一生と生育	
7	水田農業の方向性	
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
作物栽培 I	必修

対象学生	単位数
水田野菜コース1年	2.5

担当
農業大学校
財前 裕一

■講義の目的・ねらい

水田を利用した土地利用型作物および水田転換作物として露地野菜の基礎的な知識と栽培技術の習得を図る。

■具体的な到達目標

- 1 水稲、麦、大豆の生理・生態について理解させる。
- 2 水稲、麦、大豆の栽培技術を習得させる。
- 3 露地野菜の生理・生態について理解させる。
- 4 露地野菜の栽培技術を習得させる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

新版 作物栽培の基礎・堀江 武・農文協

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	ノート 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	プリント 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	学力試験を受けられる条件として講義への出席が求められている。 講義への出席を必ず行うこと。 課題等の提出については学習態度点の中で評価する。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	(水稲)作期と品種の選び方、品種特性	農大指導職員
2	(水稲)本田の準備 ①耕起、施肥設計②田植え、本田の管理 ③水管理	
3	(水稲)本田の管理 ②雑草防除	
4	(水稲)本田の管理 ③病虫害防除(病害)	
5	(水稲)本田の管理 ③病虫害防除(虫害)	
6	(水稲)本田の管理 ④出穂以降～収穫までの管理	
7	(水稲)本田の管理 ⑤収穫～乾燥調製、米の品質、規格、貯蔵	
8	(水稲)水稲の収量構成要素と収量の決定要因①	
9	(水稲)水稲の収量構成要素と収量の決定要因②	
10	(水稲)米の食味改善対策	
11	(水稲)稲作経営におけるコスト低減と省力化対策	
12	(麦)麦類の生理・生態と栽培管理技術	
13	(麦)麦類の生理・生態と栽培管理技術	
14	(大豆)大豆の生理・生態と栽培管理技術	
15	(大豆)大豆の生理・生態と栽培管理技術	
16	水田転換作物としての露地野菜とその特徴	
17	(トウモロコシ)トウモロコシの生理・生態と栽培管理技術	
18	(ジャガイモ)ジャガイモの生理・生態と栽培管理技術	
19		
20		
21		
22		
23		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
作物栽培Ⅱ	必修

対象学生	単位数
水田野菜コース1年	2

担当
農業大学校
内田 多香子

■講義の目的・ねらい

水田を利用した土地利用型作物および水田転換作物として露地野菜の基礎的な知識と栽培技術の習得を図る。

■具体的な到達目標

- 1 水稲の生理・生態について理解させる。
- 2 水稲以外の栽培技術を習得させる。
- 3 露地野菜の生理・生態について理解させる。
- 4 露地野菜の栽培技術を習得させる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

新版 作物栽培の基礎・堀江 武・農文協

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	学力試験を受けられる条件として講義への出席が求められている。 講義への出席を必ず行うこと。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	(サトイモ)サトイモの生理・生態と栽培管理技術1	農大指導職員
2	(サトイモ)サトイモの生理・生態と栽培管理技術2	
3	(にんにく)にんにくの生理・生態と栽培管理技術1	
4	(にんにく)にんにくの生理・生態と栽培管理技術2	
5	(麦)麦栽培の現状と課題	
6	(麦)麦の流通の経営について	
7	(大豆)大豆栽培の現状と課題	
8	(大豆)大豆の流通と経営について	
9	水田農業経営について	
10	(落花生)落花生の生理・生態と栽培管理技術	
11	(落花生)落花生の生理・生態と栽培管理技術	
12	きのこグループ	次ページに目標・講義内容 などを記載しています。
13		
14	農林試験センター【茶】	
15		

講義計画 (シラバス)

講義科目名	必修・選択
作物Ⅱ	必修選択

対象学生	単位数
2年選択生	2

担当	
農業大学校	
きのこグループ	農林試験センター【茶】

■講義の目的・ねらいと到達目標

【きのこ】大分県の実業経営の中で主要な柱の一つであるシイタケ栽培について学習する。まず、シイタケが所属する菌類というグループの特徴を知り、シイタケの性質を理解し、さらに栽培法の概要を学習する。

- 1 菌類の性質を理解する。2 シイタケの性質を理解する。3 シイタケ栽培の概要を理解する。

【茶】茶業における栽培や加工・審査・経営など全般についての基礎的知識を習得する。

- 1 茶の栽培・加工・審査技術について基本を習得する。2 大分県及び全国における茶業経営の実態を把握する。

■購入テキスト等 (書名・著書・出版社)

講師作成プリント

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	○
グループ活動	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	各担当より 説明
受講態度	
課題提出	
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	0%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	各担当より説明
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
	教科書 可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ (注意事項・準備物)

メッセージ	<p>【茶】講義と現地研修(試験場茶園・工場・審査室)を行う。講義には筆記用具・ノートを持参してください。降雨の場合は雨具(長靴・傘)。遅刻及び携帯・スマホ等の利用は減点します。</p> <p>【きのこ】プリントなどはテストで使用するので各自で整理すること</p>
-------	--

■講義内容 講義の順番は変わります。

回数	講義内容	備考(課題等)
1		農大コース担当
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12	1, 菌類とはどのような生き物か (1) 菌類の生態的性質 (2) 菌類の生理的性質 (3) 菌類の分類(担子菌と子のう菌) (4) 県内に見られる野生きのこ (5) シイタケの分類、生理、生態	きのこグループ
13	2, シイタケ等のきのこ栽培 (1) シイタケ栽培の歴史 (2) 菌床栽培と原木栽培 (3) 原木乾シイタケ栽培 (4) 原木生シイタケ栽培 (5) シイタケ栽培の害虫と害菌 (6) 大分県で生産されているその他きのこの概要	
14	茶の概要(教室)	農林試験センター【茶】
15	茶試験場ほ場と加工施設にて講義	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
露地野菜Ⅰ	必修

対象学生	単位数
水田野菜コース1年	2.5

担当
農業大学校
椎原 誠一

■講義の目的・ねらい

野菜における生産と利用・生育と品質・栽培と環境の関係と、その関係に基づき管理手法について学習し理解する。

■具体的な到達目標

- 1 野菜の生産に関する動向とその利用について理解する。
- 2 野菜の生育ポイントについて理解し、品質管理の手法を理解する。
- 3 野菜の健全な生育に対する、最適な環境(地上部・地下部・生物的)を理解する。
- 4 最適な環境の実現のために、土壌・施設・資材・施肥などの管理手法を理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

新版 野菜栽培の基礎 ・ 池田英男、川城英夫 ・ 農文協

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
教科書	可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
試験時の持込関係	ノート 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	プリント 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	学力試験を受けられる条件として講義への出席が求められている。 講義への出席を必ず行うこと。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	第1章 野菜の生産と利用 I 暮らしのなかの野菜	
2	第1章 野菜の生産と利用 2いろいろな野菜とその特徴	
3	第1章 野菜の生産と利用 3食生活と野菜の役割	
4	第1章 野菜の生産と利用 II 野菜の生産と消費の動向	
5	第2章 野菜の生育と品質 I 種子と発芽 II 根の発達と肥大	
6	第2章 野菜の生育と品質 III 茎葉の生育と結球 IV 花芽の分化・発達と果実の肥大	
7	第2章 野菜の生育と品質 III 茎葉の生育と結球 IV 花芽の分化・発達と果実の肥大	
8	第2章 野菜の生育と品質 V 休眠と休眠打破 VI 野菜の品質とその管理	
9	第2章 野菜の生育と品質 V 休眠と休眠打破 VI 野菜の品質とその管理	
10	第3章 野菜の栽培と環境管理 I 野菜の健全な生育と環境	
11	第3章 野菜の栽培と環境管理 II 土壌管理と施肥 ①土壌管理	
12	第3章 野菜の栽培と環境管理 II 土壌管理と施肥 ②施肥管理	
13	第3章 野菜の栽培と環境管理 II 土壌管理と施肥 ③生理障害とその対策	
14	第3章 野菜の栽培と環境管理 III 被覆資材の利用	
15	第3章 野菜の栽培と環境管理 VI 有害生物の管理 ①病害虫防除	
16	第3章 野菜の栽培と環境管理 VI 有害生物の管理 ②雑草防除	
17	第3章 野菜の栽培と環境管理 VI 有害生物の管理 ③総合的有害生物管理	
18	第3章 野菜の栽培と環境管理 VII 果菜類の育苗	
19	第3章 野菜の栽培と環境管理 VIII 茎葉菜類の育苗、IXセル成型苗の育成	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
露地野菜Ⅱ	必修

対象学生	単位数
水田野菜コース2年	2

担当
農業大学校
佐藤郁

■講義の目的・ねらい

野菜における生産と利用・生育と品質・栽培と環境の関係と、その関係に基づき管理手法について学習し理解する。

■具体的な到達目標

- 1 野菜の生産に関する動向とその利用について理解する。
- 2 野菜の生育ポイントについて理解し、品質管理の手法を理解する。
- 3 野菜の健全な生育に対する、最適な環境(地上部・地下部・生物的)を理解する。
- 4 最適な環境の実現のために、土壌・施設・資材・施肥などの管理手法を理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

新版 野菜栽培の基礎 ・ 池田英男、川城英夫 ・ 農文協

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
教科書可	<input checked="" type="checkbox"/>
試験時の持込関係	
ノート可	<input checked="" type="checkbox"/>
プリント可	<input checked="" type="checkbox"/>

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	学力試験を受けられる条件として講義への出席が求められている。 講義への出席を必ず行うこと。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	第4章 野菜栽培の実際 1ナス科野菜の栽培 ①トマト	
2	第4章 野菜栽培の実際 1ナス科野菜の栽培 ②ナス	
3	第4章 野菜栽培の実際 1ナス科野菜の栽培 ③ピーマン	
4	第4章 野菜栽培の実際 2ウリ科野菜の栽培 ①キュウリ・カボチャ	
5	第4章 野菜栽培の実際 2ウリ科野菜の栽培 ②スイカ・ゴーヤ	
6	第4章 野菜栽培の実際 3アブラナ科野菜の栽培 キャベツ・ハクサイなど	
7	第4章 野菜栽培の実際 4マメ科野菜の栽培 エダマメ・エンドウなど	
8	第4章 野菜栽培の実際 5各種野菜の栽培 白ネギ	
9	第4章 野菜栽培の実際 5各種野菜の栽培 小ネギ	
10	第4章 野菜栽培の実際 5各種野菜の栽培 ニラ・タマネギなど	
11	第4章 野菜栽培の実際 5各種野菜の栽培 ゴボウ	
12	第4章 野菜栽培の実際 5各種野菜の栽培 レタス・シュンギクなど	
13	第4章 野菜栽培の実際 5各種野菜の栽培 ニンジン・セルリーなど	
14	第4章 野菜栽培の実際 5各種野菜の栽培 スイートコーン・ハウレンソウなど	
15	第4章 野菜栽培の実際 5各種野菜の栽培 サトイモ・カンショ・パレイシヨなど	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
施設野菜Ⅰ	必修

対象学生	単位数
水田野菜コース1年	2.5

担当
農業大学校
椎原誠一

■講義の目的・ねらい

施設野菜の栽培に必要な植物生理、栽培施設及び施設内環境制御技術についての基礎的な知識を理解させるとともに、大分県の園芸戦略品目を例として、栽培技術や栽培の実態について学習させることを目的とする。

■具体的な到達目標

- 1 施設野菜栽培に必要とされる基礎的な知識、技術について習得する。
- 2 大分県園芸戦略品目を例に、施設野菜の栽培方法について学習する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

新版 野菜栽培の基礎 ・ 池田英男、川城英夫 ・ 農文協

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	ノート 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	プリント 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	成績は試験と出席状況等により評価する。 講義内容を実習圃場で確認し、理解を深めてほしい。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	施設野菜栽培の基礎①施設栽培とは	
2	施設野菜栽培の基礎②施設栽培のメリットとデメリット	
3	施設野菜栽培の基礎③施設の種類と特徴	
4	施設野菜栽培の基礎④普通作、露地野菜栽培との比較	
5	施設栽培と環境要因①光	
6	施設栽培と環境要因②温度(1)施設における温度環境	
7	施設栽培と環境要因③温度(2)施設における温度制御技術	
8	施設栽培と環境要因④風(気流)と二酸化炭素	
9	施設栽培と環境要因⑤湿度	
10	施設栽培と環境要因⑥水	
11	施設栽培と環境要因⑥土壌肥料(1)施設における土壌環境	
12	施設栽培と環境要因⑦土壌肥料(2)施設特有の障害について	
13	トマトの栽培技術① 栽培の流れ	
14	トマトの栽培技術② 施設栽培の特徴、留意点	
15	イチゴの栽培技術① 栽培の流れ	
16	イチゴの栽培技術② 施設栽培の特徴、留意点	
17	施設栽培の新技术①複合環境制御	
18	施設栽培の新技术②養液栽培(主に水耕栽培)	
19	施設栽培の新技术③植物工場	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
施設野菜Ⅱ	必修

対象学生	単位数
水田野菜コース2年	2

担当
農業大学校
佐藤郁

■講義の目的・ねらい

簡易な雨よけ栽培から、植物工場のような高度な栽培環境制御を行うものまで、様々な施設野菜の栽培技術について理解させる。また、海外での栽培事例やGAP、ICTといった将来の施設野菜に求められる技術についても紹介する。

■具体的な到達目標

- 1 様々な施設野菜栽培の方法について、実例とともに学習する。
- 2 施設野菜栽培の経済性や今後の方向性について学習する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

新版 野菜栽培の基礎・池田英男、川城英夫・農文協

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	ノート 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	プリント 可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	学力試験を受けられる条件として講義への出席が求められている。 講義への出席を必ず行うこと。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	簡易な施設野菜栽培(マルチ被覆、トンネル、雨よけ、ミニハウス)	
2	簡易な施設野菜栽培の実例(夏秋ピーマン)	
3	養液栽培の種類と特徴	
4	養液栽培の養液管理	
5	養液栽培の実例(水耕小ねぎ)	
6	高度な環境制御技術(ヒートポンプの多目的利用、光波長制御技術)	
7	複合環境制御と統合環境制御	
8	太陽光利用型植物工場の基礎	
9	太陽光利用型植物工場の実例(オオバ、ミツバ、低段密植トマト)	
10	完全人工光型植物工場の基礎	
11	完全人工光型植物工場の実例(レタス、苗生産)	
12	施設野菜栽培の経済性	
13	海外における施設野菜栽培(オランダ、韓国など)	
14	ICTの施設栽培への利用	
15	今後求められる施設野菜栽培の方向性	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
花き栽培 1	必修

対象学生	単位数
1	3

担 当
農業大学校
深蔵 知花

■講義の目的・ねらい

花き生産の現状と課題および切り花栽培における基本的な生理生態・栽培管理技術の習得を図る。

■具体的な到達目標

- 1 花き生産の現状と課題について理解する。
- 2 花き類の基本的な生理生態、病害虫防除について理解する。
- 3 大分県の主要な花き生産品目の基本的な栽培方法について理解する。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

草花栽培の基礎（農山漁村文化協会）

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	15%
受講態度	5%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	花きの生産、流通、消費に関わる基礎的内容について広く理解し、将来花きに関わる職業に就くための知識を身につけてほしい。
注意事項	講義内容毎に小テストを実施し、結果を成績評価に反映する。
準備物	講義には、教科書、ノートを持参。補助教材として、プリントを配布。

■講義内容

回数	講義内容	備考（課題等）
1	日本の花き生産の現状	
2	大分県の花き生産の現状と課題	
3	花きの輸入の現状	
4	花きの輸出の現状	
5	花きの消費	
6	花き栽培の形態	
7	花きの病害	
8	花きの害虫	
9	花きの病害虫防除	
10	花きの一生	
11	花きの繁殖	
12	土壌の性質と施肥	
13	前期テスト	
14	花きの開花調節技術	
15	花きの品質と鮮度保持	
16	様々な花きの利用	
17	切り花栽培（キク①）	
18	切り花栽培（キク②）	
19	切り花栽培（スイートピー）	
20	切り花栽培（ホオズキ）	
21	切り花栽培（少量培地栽培）	
22	切り花栽培（その他花き）	
23	後期テスト	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
花き栽培1	必修・選択

対象学生	単位数
2年総農 花きコース	2

担当
農業大学校
深蔵 知花

■講義の目的・ねらい

主要花き(切り花)の専門知識および栽培技術の習得を図る。

■具体的な到達目標

1. 大分県の主要な生産品目の栽培について理解する。
2. 県の特徴ある花きの栽培方法について理解する。
3. 花き経営の特徴について理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

草花栽培の基礎(農文協)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	70%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	花き生産において、生産額の約46%を占める切り花栽培について1年草から宿根草まで幅広く理解し、市場の動向や消費者ニーズに役立ててもらいたい。
注意事項	
準備物	講義には、教科書・ノートを持参する。補助教材として、プリントを配布する。

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	特色ある花き1 コギク① ・生産状況 ・栽培方法と栽培事例	
2	特色ある花き1 コギク② ・生産状況 ・栽培方法と栽培事例	
3	切り花栽培 トルコギキョウ① ・生産状況 ・品種と特徴	
4	切り花栽培 トルコギキョウ② ・栽培方法と作型 ・開花特性 ・ロゼット化	
5	切り花栽培 パラ ・生産状況 ・栽培方法と栽培事例	
6	切り花栽培 カーネーション ・生産状況 ・栽培方法と栽培事例	
7	切り花栽培 アルストロメリア ・生産状況 ・栽培方法と栽培事例	
8	特色ある花き2 ヤマヅリギク ・生産状況 ・栽培方法と栽培事例	
9	特色ある花き3 ストック ・生産状況 ・栽培方法と栽培事例	
10	特色ある花き4 カスミノウ ・生産状況 ・栽培方法と栽培事例	
11	大分県の主要品目と経営の特色について	
12	特色ある花き5 シュッコンアスター ・生産状況 ・栽培方法と栽培事例	
13	特色ある花き6 リンドウ ・生産状況 ・栽培方法と栽培事例	
14	今後の花き生産の方向	
15	まとめ	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
花き栽培2	必修・選択

対象学生	単位数
1年総農 花きコース	3

担当
農業大学校
井上 貴浩

■講義の目的・ねらい

1. 花きの種類や品種、利用、特性について学ぶ。
2. 鉢物、苗もの、観葉植物における栽培管理技術を学ぶ。

■具体的な到達目標

1. 花きの種類と分類法について理解する。
2. 花きの特性と成長、開花と環境について理解する。
3. 苗ものと鉢物生産の基本技術と開花生理、性質、作付け体系、管理方法について理解する。
4. 経営全般について理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

草花栽培の基礎(農文協)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	10%
課題提出	
定期試験	70%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	花きの種類と分類法を理解し、生育に関係する環境要因を調節することなど、各種栽培に役立ててもらいたい。
注意事項	
準備物	講義には、教科書・ノートを持参する。補助教材として、プリントを配布する。

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	鉢物、苗ものの基礎① 鉢の種類と特徴、鉢土の種類	
2	鉢物、苗ものの基礎② かん水方法と留意点	
3	鉢物生産の特徴	
4	花壇用苗生産の特徴①	
5	花壇用苗生産の特徴②	
6	花壇用苗生産の特徴③	
7	花きの分類方法(自然分類、園芸的分類)①	
8	花きの分類方法(自然分類、園芸的分類)②	
9	花きの生育と形態① 花きの一生と成長・開花	
10	花きの生育と形態② 花きの一生と成長・開花	
11	花きの生育と形態③ 成長と草姿の調節	
12	主な花きの日長反応 光周性、日長反応と日長処理	
13	花きの繁殖方法 種子繁殖と栄養繁殖	
14	花きの生育と形態 開花調節の技術	
15	苗ものの品目と特徴	
16	苗の生産 緑化樹・地被植物苗の生産	
17	苗もの生産の収益性について 演習	
18	鉢物の品目と特徴 鉢土の特徴と調整	
19	鉢物の生産 施肥の考え方と実際	
20	鉢物の生産 施肥料の計算	
21	作付け回数と経営 出荷調整	
22	観葉植物の性質と管理	
23	まとめ	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
花き栽培2	必修

対象学生	単位数
2	2

担当
農業大学校
井上 貴浩

■講義の目的・ねらい

主要な鉢物、苗物の栽培管理に関する知識と技術の習得を図る。

■具体的な到達目標

- 1 鉢物と苗物の主要な品目に関わる栽培について理解する。
- 2 鉢物・苗物経営の特色について理解する。
- 3 地域の気候にあった鉢物・苗物の栽培計画を作成する。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

草花栽培の基礎（農山漁村文化協会）

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	○
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	15%
受講態度	5%
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	鉢物・苗物の主要品目に関わる栽培技術から経営まで広く理解し、鉢物・苗物生産を行なう上での基礎知識を身につけてほしい。
注意事項	講義内容毎に小テストを実施し、結果を成績評価に反映する。
準備物	講義には、教科書、ノートを持参。補助教材として、プリントを配布。

■講義内容

回数	講義内容	備考（課題等）
1	鉢物・苗物の生産状況	
2	鉢物・苗物の流通状況	
3	栽培用土および肥料	
4	鉢物・苗物の栽培特性（シクラメン）	
5	鉢物・苗物の栽培特性（サルビア・夏向け苗物）	
6	鉢物・苗物の栽培特性（パンジー・ピオラ）	
7	鉢物・苗物の経営試算	
8	前期テスト	
9	鉢物・苗物の栽培特性（ハイドラングア）	
10	鉢物・苗物の栽培特性（ポインセチア）	
11	鉢物・苗物の栽培特性（ペゴニア）	
12	鉢物・苗物の栽培特性（プリムラ）	
13	鉢物・苗物の栽培特性（カーネーション）	
14	鉢物・苗物の販売戦略	
15	後期テスト	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
果樹栽培1	必修

対象学生	単位数
果樹コース1年	3

担当
農業大学校
草地千里

■講義の目的・ねらい

カンキツ類の栽培生理全般について理解させる。

■具体的な到達目標

- 1 カンキツ類の適地条件を踏まえ、栽培・経営上の特徴を理解させる。
- 2 カンキツ類の種類・品種を分類し、品種選定の考え方を理解させる。
- 3 カンキツ類の年間の生育過程と主要栽培管理について理解させる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

新版 果樹栽培の基礎(農文協)
作成資料

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	5%
課題提出	
定期試験	90%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	ノート可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否
	プリント可・ <input checked="" type="checkbox"/> 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	カンキツ類の生理・生態や栽培技術を理解し、実習で実践できるようになることを望む。
注意事項	
準備物	ノート、筆記用具

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	カンキツとは ・果実の特徴と利用 ・栽培状況	
2	原産と来歴 ・カンキツ類の発生と伝播 ・栽培の現況と推移	
3	種類・品種の分類と選定 ・カンキツの種類と主な品種 ・主要品種の特性	
4	適地条件① ・気象条件	
5	適地条件② ・土壌、地形条件	
6	栽培・経営上の特徴 ・年間の生育過程と主な栽培管理	
7	発芽・新梢伸長期・発芽と新梢伸長 ・結果枝と果こう枝	
8	開花・結実期・結果枝の種類 ・受粉・結実 ・生理的落果	
9	果実肥大期(幼果期)・摘果 ・よい果実とわるい果実 ・適正着果	
10	果実肥大・成熟期 果実肥大の要因 ・肥大パターン ・果実発育 ・果実成分の変化	
11	発育枝・芽の種類・枝の伸長 ・夏秋梢 ・芽の種類 ・花芽分化 ・結果母枝	
12	収穫期・収穫 ・貯蔵 ・出荷方法	
13	施肥・施肥体系 ・減化学肥料栽培技術	
14	土壌管理(土づくり)・良い土とは ・有機物施用による土づくり ・堆肥施用	
15	病害虫管理・主要病害虫の発生時期及び防除 ・IPM	
16	カボスについて・カボス振興 ・特性と管理のポイント	
17	ハウスみかん① ・経営上の特徴 ・着花予測	
18	ハウスみかん② ・花芽分化促進 ・管理のポイント	
19	ハウスみかん③ ・収穫後の主要管理・加温後の主要管理	
20	整枝・剪定① ・カンキツ類の特性 ・整枝剪定の目的	
21	整枝・剪定② ・剪定方法・手順とポイント	
22	カンキツの繁殖方法(植え付けから育成)	
23	カンキツの繁殖方法(挿し木・接ぎ木等)	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
果樹栽培1	必修

対象学生	単位数
果樹コース2年	2

担当
農業大学校
草地千里

■講義の目的・ねらい

カンキツ類の実践的な生産技術について理解させる。

■具体的な到達目標

- 1 カンキツ類の実践的な栽培管理の要点を理解させる。
- 2 有望な中晩生柑橘の栽培管理の要点を理解させる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

ミカンの作業便利帳(農文協)

新版 果樹栽培の基礎(農文協)

作成資料

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	5%
受講態度	5%
課題提出	
定期試験	90%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・ <input checked="" type="radio"/> 否
	ノート 可・ <input checked="" type="radio"/> 否
	プリント 可・ <input checked="" type="radio"/> 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	カンキツ類の実践的な生産技術を理解し、実習で実践できるようになることを望む。
注意事項	
準備物	ノート、筆記用具

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	大分県果樹農業の振興計画について	
2	温州ミカンの多収生産樹と高品質果実生産樹との比較	
3	温州ミカンの高品質生産の四大ポイント	
4	温州ミカンのマルチ栽培	
5	温州ミカンの収穫後から発芽までの管理	
6	温州ミカンの整枝せん定	
7	温州ミカンの発芽から開花結実までの管理	
8	温州ミカンの果実肥大期の管理	
9	温州ミカンの収穫から貯蔵までの管理	
10	有望中晩柑品種導入の注意点	
11	不知火の栽培管理のポイント	
12	大分果研4号の栽培・栽培管理のポイント	
13	天草、県オリジナル品種等の栽培管理のポイント	
14	カボスの栽培管理のポイント	
15	ユズ等香酸柑橘の栽培管理のポイント	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
果樹栽培2	必修

対象学生	単位数
果樹コース1年	3

担当
農業大学校
本田賢治

■講義の目的・ねらい

落葉果樹類の生育及び栽培の基礎について学習し、果樹経営における知識と理論を習得する。

■具体的な到達目標

- 1 落葉果樹類の原産地や来歴、適地条件を踏まえ、栽培及び経営上の特徴を理解する。
- 2 落葉果樹類の種類・品種を分類し、品種選定の考え方を理解する。
- 3 落葉果樹類の年間の生育と主要管理について理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

- ① 新版 果樹栽培の基礎(農山漁村文化協会)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
教科書可	否
試験時の持込関係	否
ノート可	否
プリント可	否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	果樹の理論・技術・魅力について学び、将来果樹生産に携わるため必要な知識を身につけてほしい。
注意事項	期末毎に理解程度を確認するためテストを行う。
準備物	ノート、筆記用具

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	果樹栽培におけるGAPの取組み	
2	果樹産地の適地	
3	果樹の定義と種類	
4	果樹の生育サイクルと一生	
5	果樹の成長特徴と生育ステージ	
6	果樹における養分生産と利用	
7	芽の分化と種類および結果習性	
8	花・果実の構成と発育	
9	葉・枝梢の構成と発育	
10	根域の構成と発育	
11	年間の管理と良果多収の基本	
12	枝の成長と整枝・せん定	
13	土壌管理とかん水・施肥	
14	苗木の生産と管理	
15	苗木の植付と栽植様式	
16	各種高品質果実栽培技術	
17	貯蔵の基礎と先端技術	
18	各論(ナシ・リンゴの栽培・利用)	
19	各論(ブドウ・カキの栽培・利用)	
20	各論(キウイフルーツの栽培・利用)	
21	各論(ブルーベリー・イチジクの栽培・利用)	
22	各論(ウメ・モモの栽培・利用)	
23	各論の総括	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
果樹栽培2	必修

対象学生	単位数
果樹コース2年	2

担当
農業大学校
本田賢治

■講義の目的・ねらい

ナシ・ブドウの高品質生産技術のポイントを学習し、収益性の高い経営の方策を習得する。

■具体的な到達目標

- 1 ナシ・ブドウを取り巻く情勢をふまえ、消費者に求められる高品質果実栽培のポイントを理解する。
- 2 生理生態に応じた栽培管理技術の要点を理解する。
- 3 有望品種の栽培や様々な仕立型における肥培管理における要点を理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

- ① 新版 果樹栽培の基礎(農山漁村文化協会)
- ② よくわかるナシ栽培(創森社)
- ③ よくわかるブドウ栽培(創森社)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	
課題提出	
定期試験	80%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・ <input checked="" type="radio"/> 否
	ノート 可・ <input checked="" type="radio"/> 否
	プリント 可・ <input checked="" type="radio"/> 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	ナシ・ブドウの高品質果実栽培のポイント、様々な樹の管理手法について学んでほしい。
注意事項	期末毎に理解程度を確認するためテストを行う。
準備物	ノート、筆記用具

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	ナシ栽培の特徴(着花管理～人工授粉)	
2	ナシ栽培の特徴(品種別の結果習性と摘果1)	
3	ナシ栽培の特徴(品種別の結果習性と摘果2)	
4	ナシの主要病害虫と防除の実際	
5	ナシ栽培の特徴(袋かけ、新梢管理:摘心)	
6	ナシ栽培の特徴(夏秋梢管理:誘引と花芽分化)	
7	ナシ栽培の特徴(収穫と剪定および土壌管理)	
8	ブドウ栽培の特徴(発芽管理～芽かき)	
9	ブドウ栽培の特徴(新梢管理:摘心、誘引)	
10	ブドウの主要病害虫と防除の実際	
11	ブドウ栽培の特徴(開花期の管理)	
12	ブドウ栽培の特徴(摘粒、整房)	
13	ブドウ栽培の特徴(収穫～貯蔵技術)	
14	ブドウ栽培の特徴(剪定および土壌管理)	
15	総括(大分県のオリジナル技術)	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
家畜栄養	必修

対象学生	単位数
総畜1年	1

担当
農業大学校
阿比留 真吾

■講義の目的・ねらい

家畜に必要な栄養素とその代謝、飼料の種類及び特性について理解させる。

■具体的な到達目標

- 1 消化吸収の仕組みについて理解させる。
- 2 栄養素の分類及び役割について理解させる。
- 3 飼料の分類及び特性について理解させる。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

家畜飼養の基礎・阿部 亮・農文教、プリント（講義時に配布）

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	40%
課題提出	
定期試験	50%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否
	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	講義では毎回自作の資料を配付するので、必ず綴じて毎回持参すること。 また、講義時間の中で模擬テスト等行うことがあるので、事前に試験勉強、準備をすること。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考（課題等）
1	1 栄養素の役割について (1)飼料の5大栄養素及び6成分	
2	2 飼料の役割について (1)飼料の定義及び概要 (2)飼料に求められる条件	
3	(3)飼料の分類、種類及び特性	
4	3 家畜の消化吸収の仕組みについて (1)家畜の消化・吸収の特徴	
5	(2)ルーメンの機能	
6	(3)栄養素の分解と吸収	
7	4 エネルギーの利用と代謝について	
8	定期試験実施	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
家畜栄養	必修

対象学生	単位数
総畜2年	1

担当
農業大学校
阿比留 真吾

■講義の目的・ねらい

飼養標準の利用法及び飼料配合設計の計算と給与法について理解させる。

■具体的な到達目標

- 1 飼養標準の種類及び利用方法を理解させる。
- 2 飼料計算、設計技術を習得させる。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

プリント（講義時に配布）、テレビドクター4、家畜人工授精講習会テキスト（日本家畜人工授精師協会）

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	40%
課題提出	
定期試験	50%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否
	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	講義では毎回自作の資料を配付するので、必ず綴じて毎回持参すること。 また、講義時間の中で模擬テスト等行うことがあるので、事前に試験勉強、準備をすること。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考（課題等）
1	1 飼料の栄養素について(1)炭水化物・蛋白質の消化と利用	
2	(2)脂肪・ミネラルの消化と利用(3)ビタミンの合成と利用	
3	2 栄養障害と代謝病	
4	3 飼料の化学成分と栄養価	
5	4 家畜の飼料設計について(1)肉用牛（繁殖・育成）の飼料設計	
6	(2)乳用牛（搾乳牛）の飼料設計	
7	(3)飼料設計の演習	
8	定期試験実施	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
家畜飼養管理・畜産環境	必修

対象学生	単位数
総畜1年	1

担当
農業大学校
阿比留 真吾

■講義の目的・ねらい

家畜に対する観察力や判断力を養うとともに飼育環境や飼養管理技術の基本を理解させる。

■具体的な到達目標

- 1 牛の行動や基礎生理についての知識を習得させる。
- 2 牛の一般飼養管理についての知識を習得させる。
- 3 畜産環境問題について理解させる。
- 4 家畜排泄物の適正処理についての知識を習得させる。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

家畜飼養の基礎・阿部 亮・農文教、プリント（講義時に配布）

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	40%
課題提出	
定期試験	50%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否
	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	講義では毎回自作の資料を配付するので、必ず綴じて毎回持参すること。 また、講義時間の中で模擬テスト等行うことがあるので、事前に試験勉強、準備をすること。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考（課題等）
1	1 健康な家畜の生理状態について 2 牛の健康管理のポイント	
2	3 家畜に対する環境の影響 ・影響を与える環境要因とその作用	
3	4 暑熱対策と子牛の寒冷対策	
4	5 肉用牛の飼養管理の概要について (1)繁殖牛・子牛 (2)肥育牛	
5	6 乳用牛の飼養管理の概要について	
6	7 畜産環境対策 (1)家畜糞尿の堆肥化処理と施用	
7	(2)汚水処理について	
8	定期試験実施	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
家畜飼養管理・畜産環境	必修

対象学生	単位数
総畜2年	1

担当
農業大学校
阿比留 真吾

■講義の目的・ねらい

家畜（肉用牛及び乳用牛）に対する飼養管理理論を理解させる。

■具体的な到達目標

- 1 肉用牛の飼養管理理論を習得させる。
- 2 乳用牛の飼養管理理論を習得させる。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

プリント（講義時に配布）、テレビドクター4、家畜人工授精講習会テキスト（日本家畜人工授精師協会）

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	40%
課題提出	
定期試験	50%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否
	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	講義では毎回自作の資料を配付するので、必ず綴じて毎回持参すること。 また、講義時間の中で模擬テスト等行うことがあるので、事前に試験勉強、準備をすること。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考（課題等）
1	1 乳用牛の飼養管理について (1)泌乳ステージごとの飼養管理	
2	(2)泌乳生理と搾乳	
3	2 肉用牛の飼養管理について (1)肥育牛の飼養管理	
4	(2)子牛の飼養管理 (3)育成牛の飼養管理	
5	(4)繁殖牛の飼養管理 (5)産肉性理論	
6	3 畜産環境 (1)悪臭対策	
7	(2)畜産関係法規について (3)飼養管理による環境対策について	
8	定期試験実施	

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
家畜育種	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
渡邊直人

■講義の目的・ねらい

- ・畜産においては、育種改良を推進することにより生産性の高い儲かる経営へと発展してきた。
- ・育種改良を進めるための必要な基礎的知識を学習し、自身の飼養管理と安定的な畜産経営に活かせるようにすることがねらいである。

■具体的な到達目標

1. 家畜育種の原理や用語を理解する。
2. 遺伝と選抜方法の基本を習得する。
3. 能力検定成績が読みとれる力を養う。
4. 登録制度についてその実務を学ぶ。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

- ・関連資料配付

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 否
	ノート 否
	プリント 否

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	家畜育種は関係する資料を活用しながら、わかりやすい講義を行っていきたい。また、育種の考え方を理解し現場で活用できるよう講義を進めるように努めていく。
注意事項	毎回小テストを実施する。
準備物	

■講義内容（1単位は7.5回、2単位は15回、3単位は22.5回の講義回数）

回数	講義内容	備考（課題等）
1	家畜遺伝の原理（メンデルの法則）	小テスト
2	家畜の主要形質と遺伝（家畜育種の目標、量的形質と質的形質など）	小テスト
3	肉用牛の評価方法（推定育種価、ゲノム育種価）	小テスト
4	種雄牛造成（直接検定、現場後代検定）	小テスト
5	和牛登録と改良について	小テスト
6	その他育種に関すること（受精卵移植技術等）	小テスト
7	模擬試験	
8	本試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
家畜解剖・生理	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
渡邊直人

■講義の目的・ねらい

家畜の基本構造を理解し、飼養管理に関連の深い各器官の基礎的な解剖学的知識を習得させる。

■具体的な到達目標

- 1 各家畜の体型と骨格について理解させる。
- 2 各家畜の内臓諸器官の構造と名称の比較について理解させる。
- 3 諸臓器の生理作用について理解させる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

家畜人工授精講習会テキスト
家畜飼養の基礎

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 否 ノート 否 プリント 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	牛の主要な臓器の位置や働きについて学ぶ。
注意事項	講義の中で、小テストを実施する。
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	牛の各部位の名称	小テスト
2	臓器の構造・生理・機能(呼吸器・消化器①)	小テスト
3	臓器の構造・生理・機能(消化器②)	小テスト
4	臓器の構造・生理・機能(脈管系)	小テスト
5	臓器の構造・生理・機能(肝臓、膵臓、脾臓)	小テスト
6	臓器の構造・生理・機能(泌尿器、脳)	小テスト
7	模擬試験	
8	本試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
家畜衛生	必修

対象学生	単位数
2	1

担当
農業大学校
渡邊直人

■講義の目的・ねらい

家畜に対する一般的な衛生知識と主な疾病の予防対策を理解させる。
特に伝染病の感染源、伝染経路、予防法について理解させる。

■具体的な到達目標

- 1 家畜と各疾病の予防について理解させる。
- 2 各種法令と飼養衛生管理基準について理解させる。
- 3 消毒とワクチン接種、初乳免疫について理解させる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

テレビドクター3
家畜飼養の基礎

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 否
	ノート 否
	プリント 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	家畜衛生は家畜の健康、しいては経営に直結するため、畜種毎に適切な飼養方法や衛生対策を理解し、就農後の経営に役立ててほしい。
注意事項	講義の中で、小テストを実施する。
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	疫学および疾病予防	小テスト
2	家畜の感染症について	小テスト
3	初乳、ワクチン、抗生物質について	小テスト
4	牛の監視伝染病(BSE、FMD)	小テスト
5	鶏、豚の監視伝染病(HPAI、CSF、ASF)	小テスト
6	飼養衛生管理基準	小テスト
7	模擬試験	
8	本試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
家畜繁殖1	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
渡邊直人

■講義の目的・ねらい

家畜繁殖の意義と基礎知識を理解させ、家畜人工授精と家畜の改良増殖に役立たせる。特に性ホルモンの名称と働き、性成熟、種付け適期について理解させる。

■具体的な到達目標

- 1 家畜繁殖の基礎知識を理解させる。
- 2 家畜繁殖に必要な性ホルモンの名称と働きについて理解させる。
- 3 家畜人工授精の種付け適期について理解させる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

家畜人工授精講習会テキスト
家畜飼養の基礎

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 否 ノート 否 プリント 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	家畜繁殖は、繁殖母牛の管理(種付け)に直結するため、生殖周期や分娩などのメカニズムを理解し、就農後の経営に役立ててほしい。
注意事項	講義の中で、小テストを実施する。
準備物	講義には必ず教科書を持参すること。

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	生殖器の形態と機能について①(雄)	小テスト
2	生殖器の形態と機能について②(雌)	小テスト
3	神経・内分泌について①(ホルモンの作用機序と分泌調整)	小テスト
4	神経・内分泌について②(繁殖に関連する主なホルモン)	小テスト
5	神経・内分泌について③(雌牛の繁殖整理)	小テスト
6	雌の繁殖生理(分娩)	小テスト
7	模擬試験	
8	本試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
家畜繁殖2	必修

対象学生	単位数
2	1

担当
農業大学校
渡邊直人

■講義の目的・ねらい

家畜繁殖の意義と基礎知識を理解させ、家畜人工授精と家畜の改良増殖に役立たせる。特に性ホルモンの名称と働き、性成熟、種付け適期について理解させる。

■具体的な到達目標

- 1 家畜繁殖の基礎知識を理解させる。
- 2 家畜繁殖に必要な性ホルモンの名称と働きについて理解させる。
- 3 家畜人工授精の種付け適期について理解させる。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

家畜人工授精講習会テキスト
家畜飼養の基礎

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	○
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 否 ノート 否 プリント 否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	家畜繁殖は、繁殖経営(種付け・分娩)に直結するため、生殖周期や分娩などのメカニズムを理解し、就農後の経営に役立ててほしい。
注意事項	講義の中で、小テストを実施する。
準備物	講義には必ず教科書を持参すること。

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	雄と雌の生殖器について	小テスト
2	雄の生殖整理について①	小テスト
3	雄の生殖整理について②	小テスト
4	雌の発情周期について	小テスト
5	妊娠、分娩について①	小テスト
6	妊娠、分娩について②	小テスト
7	模擬試験	小テスト
8	本試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画 (シラバス)

講義科目名	必修・選択
飼料作物・ 水田飼料作	必修

対象学生	単位数
総畜1年	1

担当
農業大学校
阿比留 真吾

■講義の目的・ねらい

飼料作物の栽培や収穫調製に係る知識を学び、実際の圃場作業を通じて理解を深める。
なお、この科目は2年次の1単位とあわせて総合的に構成している。

■具体的な到達目標

1. 飼料作物と家畜の関係を理解する。
2. 飼料作物の栽培に関する基礎知識を学ぶ。
3. 飼料作物の生産に係る実際の作業体系を学ぶ。

■購入テキスト等 (書名・著書・出版社)

家畜飼養の基礎・阿部 亮・農文教、プリント (講義時に配布)

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	40%
課題提出	
定期試験	50%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否
	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ (注意事項・準備物)

メッセージ	講義では毎回自作の資料を配付するので、必ず綴じて毎回持参すること。 演習では実際に総合畜産科で給与する飼料作物の作付け・収穫調製作業を行う。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考 (課題等)
1	飼料作物の意義と概説	
2	飼料作物の特性と生産	
3	飼料作物の栽培体系 (土作り・施肥・播種～収穫調製)	
4	飼料作物の栽培体系 (土作り・施肥・播種～収穫調製) 演習	
5	飼料作物の栽培体系 (土作り・施肥・播種～収穫調製) 演習	
6	飼料作物の栽培体系 (土作り・施肥・播種～収穫調製) 演習	
7	飼料作物の栽培体系 (土作り・施肥・播種～収穫調製) 演習	
8	定期試験	

講義計画 (シラバス)

講義科目名	必修・選択
飼料作物・ 水田飼料作	必修

対象学生	単位数
総畜 2 年	1

担 当
農業大学校
阿比留 真吾

■講義の目的・ねらい

飼料作物の栽培や収穫調製に係る知識を学び、実際の圃場作業を通じて理解を深める。
なお、この科目は2年次の1単位とあわせて総合的に構成している。

■具体的な到達目標

1. 飼料作物と家畜の関係を理解する。
2. 飼料作物の栽培に関する基礎知識を学ぶ。
3. 飼料作物の生産に係る実際の作業体系を学ぶ。

■購入テキスト等 (書名・著書・出版社)

プリント (講義時に配布)

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

■成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	40%
課題提出	
定期試験	50%
資格取得	
その他	
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可 ・ 否
	ノート 可 ・ 否
	プリント 可 ・ 否

■担当教官またはコースからメッセージ (注意事項・準備物)

メッセージ	講義では毎回自作の資料を配付するので、必ず綴じて毎回持参すること。 演習では実際に総合畜産科で給与する飼料作物の作付け・収穫調製作業を行う。
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考 (課題等)
1	放牧の基礎知識	
2	草地造成と管理	
3	主な飼料作物 (夏作物・冬作物)	
4	主な飼料作物 (飼料用イネ)	
5	飼料作物の栽培体系 (土作り・施肥・播種～収穫調製) 演習	
6	飼料作物の栽培体系 (土作り・施肥・播種～収穫調製) 演習	
7	飼料作物の栽培体系 (土作り・施肥・播種～収穫調製) 演習	
8	定期試験	

講義計画 (シラバス)

講義科目名	必修・選択
畜産概論・経営	必修

対象学生	単位数
1	1

担当
農業大学校
太田正樹

■講義の目的・ねらい

人と家畜の関わりを学び、主要家畜についての特徴や飼育管理などの基本について概要を理解する。

■具体的な到達目標

1. 人と家畜のかかわりを知り、どのように利用しているかを学ぶ。
2. 主要家畜の飼育管理等に関して基本技術等を理解する。
3. 各畜産経営における課題を把握し、その解決方法を考える。

■購入テキスト等 (書名・著書・出版社)

家畜人工授精講習会テキスト

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	○
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
	教科書 可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ (注意事項・準備物)

メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな生活のために畜産業の果たす役張りは大きく、ますます重要な分野となってきていることを学んでほしい。農業の中で畜産がどのような位置づけにあるのか理解してください。 ・畜産に関わる仕事を目指す学生(人)にとってとても重要な科目です。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産全般を学ぶはじまりの教科と考えています。
準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・特にありません。

■講義内容 (1単位は7.5回、2単位は15回、3単位は23.5回の講義回数)

回数	講義内容	備考 (課題等)
1	畜産と家畜	
2	家畜の生理と飼育	
3	牛 (肉用牛)	
4	牛 (乳用牛)	
5	養豚・養鶏	
6	その他の家畜、アニマルウェルフェア、トレーサビリティ	
7	試験	
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
畜産経営演習	必修

対象学生	単位数
2	1

担当
農業大学校
葛城 和夫

■講義の目的・ねらい

畜産経営の基礎的能力を習得する。

■具体的な到達目標

1. 経営用語と意味を学ぶ。
2. 損益計算書と貸借対照表の見方を学ぶ。
3. 経営指標の計算方法を習得する。
4. 経営改善の考え方や方法を学ぶ

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講師作成プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	30%
受講態度	30%
課題提出	40%
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	将来、畜産経営者及び社会人となる能力を習得する場にしたい。 複式簿記の基礎を習得していることが望ましい。 自分の考えをどしどし発言してほしい。
注意事項	
準備物	

■講義内容(1単位は7回、2単位は15回、3単位は23回の講義回数)

回数	講義内容	備考(課題等)
1	事例研究	
2	経営分析のための用語	
3	複式簿記の決算書(損益計算書、貸借対照表)	
4	経営費	
5	経営の課題発見	
6	経営改善	
7	経営改善計画	
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
家畜人工授精	必修

対象学生	単位数
2	2

担当
農業大学校
阿比留真吾、渡邊直人 藤原照久、三宮雄貴

■講義の目的・ねらい

牛の繁殖について学習すると共に、家畜人工授精の技術を理解させ、凍結精液の注入技術を習得する。

■具体的な到達目標

- 1 家畜人工授精の方法及び注入実習。
- 2 家畜人工授精講習会の修業試験を受験し、免許を取得する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

家畜人工授精講習会テキスト

講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	20%
受講態度	20%
課題提出	
定期試験	60%
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	○
その他	

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	11月からおよそ1ヶ月程度講習会を受講し、家畜人工授精師の知識と技術を取得する。
注意事項	家畜人工授精講習会の修業試験(学科及び実地)の対策をすること。 欠席すると修業試験を受験できないため、注意すること。 もし講習会に参加しない学生がいれば、単位取得のために別途対応を検討する。
準備物	講義には必ず教科書を持参すること。

■講義内容

回数	講義内容	備考(課題等)
1	家畜人工授精講習会受講(関係法規)	
2	家畜人工授精講習会受講(精液精子検査法(実習))	
3	家畜人工授精講習会受講(精液精子検査法(実習))	
4	家畜人工授精講習会受講(家畜の審査(実習))	
5	家畜人工授精講習会受講(家畜の審査(実習))	
6	家畜人工授精講習会受講(人工授精)	
7	家畜人工授精講習会受講(人工授精)	
8	家畜人工授精講習会受講(人工授精)	
9	家畜人工授精講習会受講(人工授精(実習))	
10	家畜人工授精講習会受講(人工授精(実習))	
11	家畜人工授精講習会受講(人工授精(実習))	
12	家畜人工授精講習会受講(人工授精(実習))	
13	家畜人工授精講習会受講(人工授精(実習))	
14	家畜人工授精講習会修業試験(学科試験)	
15	家畜人工授精講習会修業試験(実地試験)	

※ 人工授精(実習)はR5年度から農大生は農大で行うことが正式に決まった。(R3年度から暫定的に行ってきた。)

講義計画（シラバス）

講義科目名	必修・選択
畜産加工実習	必修

対象学生	単位数
1	1
2	1

担当
農業大学校
藤原照久、三宮雄貴

■講義の目的・ねらい

畜産加工の歴史、肉の部位の名称及び特徴、肉製品の加工技術及び製品の種類等知識を習得させる。

■具体的な到達目標

- 1 乳製品の加工技術と知識の修得。
- 2 食肉加工品の加工技術と知識の修得。

■購入テキスト等（書名・著書・出版社）

家畜飼養の基礎・阿部 亮・農文教、プリント（講義時に配布）

■講義形態	該当に○
一斉講義	○
演習	
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	実習

■成績評価	該当に%
出席状況	30%
受講態度	30%
課題提出	
定期試験	20%
資格取得	
その他 実技	20%
合計	100%

■試験方法	該当に○
試験は不実施	
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	○
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可 ・ 否
	ノート 可 ・ 否
	プリント 可 ・ 否

■担当教官またはコースからメッセージ（注意事項・準備物）

メッセージ	衛生管理には特に注意し、刃物によるケガ、熱湯による火傷に注意する必要がある
注意事項	
準備物	

■講義内容

回数	講義内容	備考（課題等）
1	乳製品、食肉加工品の概要（歴史と流通）	説明と実習を組み合わせて行う。
2	加工の原理 食肉の選び方、加工技術の意味 加工の技術	
3	食肉 牛、豚、鶏肉の部位の名称及び特徴	
4	加工の原理 加工の道具、材料	
5	加工の流れ 解体・整形・塩漬・包装	
6	加工の流れ 乾燥・燻煙・加熱・殺菌	
7	ハム・ベーコン 種類と作成方法	
8	定期試験	
(9)	乳製品の加工実習	1年生1単位分
(10)	乳製品の加工実習	
(11)	乳製品の加工実習	2年生1単位分
(12)	食肉加工品の加工実習	
(13)	食肉加工品の加工実習	
(14)	食肉加工品の加工実習	
(15)	食肉加工品の加工実習	
(16)	定期試験	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
卒業論文	必修

対象学生	単位数
2	5

担当
農業大学校
各学科コース担任

■講義の目的・ねらい

学生が将来、自営者や就農者となることを念頭に、調査研究活動、発表、論文作成などを通じて、地域や会社の指導者としての基礎的な資質・能力を養成する。

■具体的な到達目標

- ・事実を正確に捉え、分析し論理的に考察できる。
- ・分析や考察の結果をまとめて発表する能力の向上。
- ・物事を主体的に認識する態度の養成。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

各コース担任より紹介がある。

講義形態	該当に○
計画	○
調査	○
集計	○
発表	○
資料作成	○
論文作成	○
その他	

成績評価	該当に%
目的	15%
実施と方法	15%
工夫と成果	15%
結論	20%
活用方法	15%
発表	20%
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
教科書の持込関係	教科書 可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	先進農家研修などの経験や将来の進路目標から自家の営農計画、生産技術の検討・改善、地域農業の問題からテーマを選定しよう。発表の優良者は九州大会へ出場する。
注意事項	計画・中間・成果発表と付随する資料提出。論文、卒業論文概要書の提出は必須
準備物	

■講義内容(1単位は7回、2単位は15回、3単位は23回の講義回数)

回数	講義内容	備考(課題等)
1年9月頃	プロジェクト計画発表 ↓研究活動開始	
2年6月頃	プロジェクト中間発表(現地) ↓研究活動	
2年12月頃	プロジェクト成果研究発表 ↓論文作成開始 ↓コース最優秀発表者 ↓論文作成開始 ↓校内コース代表発表会	
2年1月頃	卒業論文提出 ↓九州大会出場	
2年2月頃	卒業論文概要書提出 全国大会出場	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
体験学習	必修

対象学生	単位数
1	7
2	2

担当
農業大学校

■講義の目的・ねらい

農大の施設設備上の問題や2年間という時間的制約から、卒業後直ちに就農できるような実施的技術、先端技術、流通、情報システム等の指導が十分でない実情があり、校内だけでは不十分な学習の補完を行う。

■具体的な到達目標

【先進農家体験研修】
ある期間、農家の人たちと寝食を共にし、同じ農作業を体験することにより考え方を学び、人間性を高め、知識・技術の向上を図る。
【経営者感覚育成講座】
先進農家の優れた技術や経営方法、考え方にふれ、学校で学んだ知識・技術の理解を深め将来の就農の参考とする。
【海外派遣研修】
国際感覚を涵養し、国際化に向けた広い視野を身につける。その国の現在の農業の姿と将来の展望を聞き、現地の革新的な技術や経営を学ぶ。これらを通じ、我が国の農業を見直す機会とする。

講義形態	該当に○
一斉講義	○
研修	○
発表	
視察	○
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
先進農家研修	60%
海外派遣研修	
経営者感覚育成講座	40%
合計	100%
80%以上の出席が評価の条件	

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期考査中に実施	
資格試験日	
その他	
教科書の関係	教科書 可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	評価は取り組み状況と提出物で行い、それぞれへの出席が評価できる条件である。
注意事項	
準備物	

■講義内容(1単位は7回、2単位は15回、3単位は23回の講義回数)

回数	講義内容	備考(課題等)
1年10月頃	先進農家体験研修(3~4週間)	レポート提出
	11月報告会(全体発表)	発表原稿提出
2年6月頃	海外農業体験派遣研修(1週間)	レポート提出
	12月報告会(全体発表)	発表原稿提出
1・2年	経営者感覚育成講座 7~1月 全6回	レポート提出

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
実習	必修

対象学生	単位数
1年15単位・2年16単位	

担当
農業大学校
水田・露地野菜クラス

■実習の目的・ねらい

学校農場は就農に必要な知識、技術、経営能力の修得の場である。学生は主体的・自主的な管理運営を通じて実地・実物を学ばせる。自主性の育成には他から学び、批判や助言を喜んで聞く姿勢、すなわち謙虚さや自己責任感が大切である。この姿勢を持ち実習された結果、学生は責任感・正確性・規則遵守・協調性・忍耐力・積極性・創造性を身につけ、社会が求める人間を育てることにつながる。

■具体的な到達目標

- ①基礎・基本となる農業技術の習得・体験
- ②品目別(プロジェクト品目)の栽培に関する専門性の高い農業技術の習得・体験
- ③栽培に関する経営管理能力の習得

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

--

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習・実習・実技	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
技能	20%
出席	30%
態度	30%
記録	20%
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期試験中に実施	
資格試験日	
その他	
教科書	可・否
試験時の持込関係	ノート 可・否
	プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	①評価の条件は各コース・クラスの当番実習を完了する事 ②単位習得には評価点50点以上であり尚且つ出席率は90%以上である事 ③欠席は無断欠課1時間につき2点減点し、届出があったものは欠課1時間につき1点を減点する。
注意事項	
準備物	帽子、長靴、手袋、その他作業に必要なもの

■実習内容(各コース・クラスで年間の実習で習得すべき技術・技能、体験すべき重点的な管理項目を列挙する)

項目	1年次	2年次
1	水稻栽培技術	プロジェクトの管理作業
2	大豆栽培技術	水稻栽培技術
3	麦栽培技術	大豆栽培技術
4	露地野菜栽培技術	麦栽培技術
5	水田、畑の管理作業	露地野菜栽培技術
6	作業機械の作業と管理方法	水田、畑の管理作業
7	作業機械の安全対策	作業機械の作業と管理方法
8	農薬の取り扱い	作業機械の安全対策
9	肥料の取り扱い	農薬の取り扱い
10	生産物の調製、出荷	肥料の取り扱い
11	生産物の販売	生産物の調製、出荷
12	GAP	生産物の販売
13		GAP
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
実習	必修

対象学生	単位数
1年15単位・2年16単位	

担当
農業大学校
椎原誠一、佐藤郁

■実習の目的・ねらい

学校農場は就農に必要な知識、技術、経営能力の修得の場である。学生に主体的・自主的な管理運営を通じて実地・実物を学ばせる。自主性の育成には他から学び、批判や助言を進んで聞く姿勢、すなわち謙虚さや自己責任感が大切である。こういった姿勢のもと実習を行い、学生が責任感・正確性・規則遵守・協調性・忍耐力・積極性・創造性といった、社会の求める素養を得ることを目的とする。

■具体的な到達目標

- ①基礎・基本となる農業技術の習得・体験
- ②品目別(プロジェクト品目)の栽培・飼育に関する専門性の高い農業技術の習得・体験
- ③栽培・飼育に関する経営管理能力の習得

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

--

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習・実習・実技	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
技能	20%
出席	30%
態度	30%
記録	20%
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期試験中に実施	
資格試験日	
その他	
教科書	可・否
試験時の持込関係	ノート可・否
	プリント可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	①評価の条件は各コース・クラスの当番実習を完了する事 ②単位習得には評価点50点以上であり尚且つ出席率は90%以上である事 ③欠席は無断欠課1時間につき2点減点し、 書面による 届出があったものは欠課1時間につき1点を減点する。
注意事項	
準備物	

■実習内容

項目	1年次	2年次
1	育苗(セルトレイ、ポット等の利用)	試験区の設定
2	土づくり(堆肥の計算・施用)	栽培計画の作成
3	畑の準備(施肥、畝立て、マルチング)	生育調査
4	ハウス補修、被覆材張り替え	収量調査、糖度調査
5	播種・定植	調査データの整理
6	かん水	出荷計画の作成
7	追肥	統合環境制御技術を用いた栽培管理
8	農薬の希釈、散布	株管理(剪定、摘花、摘葉等)
9	除草(刈払機、除草剤使用)	病虫害防除(病虫害の種類とIPM手法)
10	収穫	土壌消毒(薬剤消毒、太陽熱消毒)
11	調製	夏季高温対策(遮光等)
12	販売	冬季低温対策(保温、加温等)
13	農業機械の操作(運搬車、動力噴霧機、トラクター)	チーム作業(情報共有、共同作業)
14	道具・機械の保守点検、圃場清掃	圃場情報の可視化
15	作業計画・作業記録の作成	安全・安心な作業環境づくり

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
実習	必修

対象学生	単位数
1年15単位・2年16単位	

担当
農業大学校
花きコース

■実習の目的・ねらい

学校農場は就農に必要な知識、技術、経営能力の修得の場であり、学生は主体的・自主的な管理運営を通じて実地・実物を学ぶ。自主性の育成には他から学び、批判や助言を喜んで聞く姿勢、すなわち謙虚さや自己責任感が大切である。この姿勢を持ち実習がなされた結果、学生は責任感・正確性・規則遵守・協調性・忍耐力・積極性・創造性を身につけ、社会が求める人間を育てることにつながる。

■具体的な到達目標

- ①基礎・基本となる農業技術の習得・体験
- ②品目別(プロジェクト品目)の栽培・飼育に関する専門性の高い農業技術の習得・体験
- ③花き栽培に関する経営管理能力の習得

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習・実習・実技	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
技能	20%
出席	30%
態度	30%
記録	20%
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期試験中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	①評価の条件は各コース・クラスの当番実習を完了する事 ②単位習得には評価点50点以上であり尚且つ出席率は90%以上である事 ③欠席は無断欠課1時間につき2点減点し、届出があったものは欠課1時間につき1点を減点する。
注意事項	
準備物	

■実習内容(各コース・クラスで年間の実習で習得すべき技術・技能、体験すべき重点的な管理項目を列挙する)

項目	共通	専門
1	施設における土耕栽培技術	キク栽培技術
2	露地における土耕栽培技術	スイートピー栽培技術
3	施設における隔離床栽培技術	ガーベラ栽培技術
4	小型農業機械の操作技術	ホオズキ栽培技術
5	防除機を使った農薬散布技術	ヤマジノギク栽培技術
6	ビニールハウスの張替え	シクラメン栽培技術
7	花きの出荷調整技術	カーネーション栽培技術
8		花苗の栽培技術
9		その他切り花の栽培技術
10		その他鉢もの栽培技術
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
実習	必修

対象学生	単位数
果樹コース1年15単位・2年16単位	

担当
農業大学校
本田賢治・草地千里

■実習の目的・ねらい

学校農場は就農に必要な知識、技術、経営能力の修得の場である。学生は主体的・自主的な管理運営を通じて実地・実物を学ばせる。自主性の育成には他から学び、批判や助言を喜んで聞く姿勢、すなわち謙虚さや自己責任感が大切である。この姿勢を持ち実習された結果、学生は責任感・正確性・規則遵守・協調性・忍耐力・積極性・創造性を身につけ、社会が求める人間を育てることにつながる。

■具体的な到達目標

- ①基礎・基本となる農業技術の習得・体験
- ②品目別(プロジェクト品目)の栽培・飼育に関する専門性の高い農業技術の習得・体験
- ③栽培・飼育に関する経営管理能力の習得

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習・実習・実技	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
技能	20%
出席	30%
態度	30%
記録	20%
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期試験中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	①評価の条件は各コース・クラスの当番実習を完了する事 ②単位習得には評価点50点以上であり尚且つ出席率は90%以上である事 ③欠席は無断欠課1時間につき2点減点し、届出があったものは欠課1時間につき1点を減点する。
注意事項	
準備物	

■実習内容(各コース・クラスで年間の実習で習得すべき技術・技能、体験すべき重点的な管理項目を列挙する)

項目	1年次	2年次
1	定植(苗木)	定植(苗木)
2	整枝・剪定	整枝・剪定
3	接ぎ木	接ぎ木
4	摘果	摘果
5	人工交配(梨・精選花粉採取方法)	人工交配(梨・精選花粉採取方法)
6	ジベレリン処理	ジベレリン処理
7	防除(希釈・散布・SS使用)	防除(希釈・散布・SS使用)
8	収穫・選果・出荷調整	収穫・選果・出荷調整
9	施肥	施肥
10	ハウス管理	ハウス管理
11	果実分析	果実分析
12	除草(刈り払い機・除草剤使用)	除草(刈り払い機・除草剤使用)
13	枝つり	枝つり
14	誘引	誘引
15	摘粒	摘粒

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
実習	シラバス

対象学生	単位数
1年15単位・2年16単位	

担当
農業大学校
阿比留真吾、渡邊直人 藤原照久、三宮雄貴

■実習の目的・ねらい

学校農場は就農に必要な知識、技術、経営能力の修得の場である。学生は主体的・自主的な管理運営を通じて実地・実物を学ばせる。自主性の育成には他から学び、批判や助言を喜んで聞く姿勢、すなわち謙虚さや自己責任感が大切である。この姿勢を持ち実習された結果、学生は責任感・正確性・規則遵守・協調性・忍耐力・積極性・創造性を身につけ、社会が求める人間を育てることにつながる。

■具体的な到達目標

肉用牛および乳用牛の飼養管理技術、給与飼料設計、繁殖管理、飼料作物の栽培・収穫作業、堆肥生産管理、機械器具管理、疾病予防方法などを学習し、より専門的な知識、技術を身につける。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習・実習・実技	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
技能	20%
出席	30%
態度	30%
記録	20%
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期試験中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	①評価の条件は朝・休日当番を完了する事(90%以上の出席率) ②単位習得には評価点50点以上であり尚且つ実習出席率は90%以上である事 ③欠席は無断欠課1時間につき2点減点し、届出があったものは欠課1時間につき1点を減点する。
注意事項	
準備物	

■実習内容(各コース・クラスで年間の実習で習得すべき技術・技能、体験すべき重点的な管理項目を列挙する)

項目	肉用牛専攻	乳用牛専攻
1	繁殖母牛の飼養管理	搾乳牛の飼養管理
2	育成牛の飼養管理	乾乳牛の飼養管理
3	子牛の飼養管理	育成牛の飼養管理
4	肥育牛の飼養管理	子牛の飼養管理
5	肉用牛の改良・育種価	搾乳方法
6	母牛の繁殖管理	
7	分娩対応	
8	給与飼料設計	
9	暑熱・寒冷対策	
10	体測	
11	去勢・除角・削蹄方法	
12	飼料作物の栽培・収穫作業	
13	堆肥生産管理	
14	機械器具の操作・取り扱い	
15	疾病予防・農場防疫対策	

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
先進農業事例研修	必修

対象学生	単位数
1年1単位・2年1単位	

担当
農業大学校
水田・露地野菜クラス

■実習の目的・ねらい

- 1 講義と連動した先進事例、演習を用いて理解させる。
- 2 先進事例の経営技術を理解させる。
- 3 各種分析手法について理解させる。

■具体的な到達目標

- ①学校教育の高度化となる農業技術の習得・体験
- ②品目別(プロジェクト品目)の栽培に関する専門性の高い農業技術の習得・体験
- ③経営管理能力の習得

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習・実習・実技	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	80%
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期試験中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義への出席を必ず行うこと。 課題等の提出については学習態度点の中で評価する。
注意事項	
準備物	

■実習内容(各コース・クラスで年間の実習で習得すべき技術・技能、体験すべき重点的な管理項目を列挙する)

項目	1年次	2年次
1	先進事例(施設)	先進事例(施設)
2	先進事例(機械)	先進事例(機械)
3	先進事例(経営)	先進事例(経営)
4	スマート農業(アグリノート、ドローン等農機)	スマート農業(アグリノート、ドローン等農機)
5	分析手法(土壌分析、成分分析、画像分析)	分析手法(土壌分析、成分分析、画像分析)
6	生育調査、生育診断	生育調査、生育診断
7	経営分析	経営分析
8	GAP	GAP
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
先進農業事例研修	必修

対象学生	単位数
1年1単位・2年1単位	

担当
農業大学校
野菜クラス

■講義の目的・ねらい

講義、プロジェクト研究活動及びスマート農業等と関連する先進事例研修を実施し、将来の就農の参考となる先端技術、経営、産地の動向等の実際を学ぶ。

■具体的な到達目標

- 1 各種品目の専門性の高い先進技術を習得する。
- 2 先進農家等の農業経営(流通も含む)の実践方法を理解する。
- 3 各種品目の産地の動向を学び、大分県農業への理解を深める。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

先進事例研修先の情報を記した配布プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習・実習・実技	一部、○
発表	
視察	○
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	50%
受講態度	20%
課題提出	30%
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期試験中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	出席を必ず行うこと。先進事例先には真摯な態度で臨むこと。
注意事項	
準備物	

■実習内容

項目	1年次	2年次
1	ピーマン栽培の実際(技術)	水耕栽培の実際(技術)
2	ピーマン栽培の実際(経営)	水耕栽培の実際(経営)
3	トマト栽培の実際(技術)	植物工場の実際(技術)
4	トマト栽培の実際(経営)	植物工場の実際(経営)
5	イチゴ栽培の実際(技術)	大規模施設園芸の実際(技術)
6	イチゴ栽培の実際(経営)	大規模施設園芸の実際(栽培)
7	かんしょの育苗管理の実際(技術)	六次産業化の実際(技術)
8	かんしょの産地の実際(産地)	六次産業化の実際(経営)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
先進農業事例研修	必修

対象学生	単位数
1年1単位・2年1単位	

担当
農業大学校
花きコース

■実習の目的・ねらい

- 1 講義と連動した先進事例、演習を用いて理解させる。
- 2 先進事例の経営技術を理解させる。
- 3 各種分析手法について理解させる。

■具体的な到達目標

- 1 学校教育の高度化となる農業技術の習得・体験
- 2 先進農家等の農業経営(流通も含む)の実践方法を理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習・実習・実技	○
発表	
視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	30%
受講態度	20%
課題提出	50%
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期試験中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	講義への出席を必ず行うこと。 先進事例先には真摯な態度で臨むこと。
注意事項	
準備物	

■実習内容(各コース・クラスで年間の実習で習得すべき技術・技能、体験すべき重点的な管理項目を列举する)

項目	1年次	2年次
1	ホオズキ栽培の実際(技術)	少量培地栽培の実際(技術)
2	ホオズキ栽培の実際(経営)	少量培地栽培の実際(経営)
3	キク栽培の実際(技術)	花き流通の実際① 市場調査
4	キク栽培の実際(経営)	花き流通の実際② 花屋調査
5	スイートピー栽培の実際(技術)	花きの先進技術の実際①(試験場)
6	スイートピーの実際(経営)	花きの先進技術の実際②(試験場)
7	鉢物・苗物栽培の実際(技術)	大規模施設園芸の実際(技術)
8	鉢物・苗物栽培の実際(経営)	大規模施設園芸の実際(栽培)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
先進農業事例研修	必修

対象学生	単位数
果樹コース1年1単位・2年1単位	

担当
農業大学校
本田賢治・草地千里

■実習の目的・ねらい

講義、プロジェクト研究活動及びスマート農業等と関連する先進事例研修を実施し、将来の就農の参考となる先端技術、経営、産地の動向等の実際を学ぶ。

■具体的な到達目標

- ①各種品目の専門性の高い先進技術を習得する。
- ②先進農家等の農業経営(流通も含む)の実践方法を理解する。
- ③各種品目の産地の動向を学び、大分県農業への理解を深める。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

先進事例研修先の情報を記した配布プリント

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習・実習・実技	○
発表	
視察	○
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	10%
受講態度	10%
課題提出	80%
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期試験中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	先進事例研修先には真摯な態度で臨むこと。
注意事項	
準備物	ノート、筆記用具

■研修内容

項目	1年次	2年次
1	温州ミカン試験研究の実際(国東市)	温州ミカン試験研究の実際(国東市)
2	中晩柑・カボス試験研究の実際(津久見市)	中晩柑・カボス試験研究の実際(津久見市)
3	落葉果樹試験研究の実際(宇佐市)	落葉果樹試験研究の実際(宇佐市)
4	柑橘経営の実際(杵築市)	柑橘経営の実際(杵築市)
5	カボス経営の実際(竹田市)	カボス経営の実際(竹田市)
6	ナシ経営の実際(日田市)	ナシ経営の実際(日田市)
7	ブドウ経営の実際(宇佐市)	ブドウ経営の実際(宇佐市)
8	モモ経営の実際(豊後大野市)	モモ経営の実際(豊後大野市)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

講義計画(シラバス)

講義科目名	必修・選択
先進農業事例研修	必修

対象学生	単位数
1年1単位・2年1単位	

担当
農業大学校
総合畜産科

■実習の目的・ねらい

IT技術を活用した飼育方法について学習する。
畜産経営の考え方や、農場で飼育していない豚、鶏の生産農場を知ることによって自営や農業法人への就職の参考とする。

■具体的な到達目標

- 1 先進事例技術の活用方法を習得する。
- 2 畜産経営手法を理解する。
- 3 畜産物の流通について理解する。
- 4 豚、鶏等の飼育方法を理解する。

■購入テキスト等(書名・著書・出版社)

講義形態	該当に○
一斉講義	
演習・実習・実技	○
発表 視察	
グループ活動	
小テスト	
その他	

成績評価	該当に%
出席状況	30%
受講態度	30%
課題提出	40%
定期試験	
資格取得	
その他	
合計	100%

試験方法	該当に○
試験は不実施	○
最後の時間に実施	
定期試験中に実施	
資格試験日	
その他	
試験時の持込関係	教科書 可・否 ノート 可・否 プリント 可・否

■担当教官またはコースからメッセージ(注意事項・準備物)

メッセージ	積極的な質疑により研修事例への理解を深めること。
注意事項	
準備物	

■実習内容(各コース・クラスで年間の実習で習得すべき技術・技能、体験すべき重点的な管理項目を列挙する)

項目	1年次	2年次
1	IT技術の活用(ほ乳ロボット)	畜産経営手法(自給飼料型)
2	IT技術の活用(データ管理)	畜産経営手法(購入飼料型)
3	おおいた和牛の流通(大分県畜産公社)	畜産経営手法(多頭飼育)
4	生乳の流通	畜産経営手法(放牧経営)
5	県産ブランド(おおいた冠地どり、米の恵み豚)	畜産経営手法(酪農経営)
6	養豚農場研修	畜産経営手法(交雑牛経営等)
7	採卵鶏農場研修(アニマルウエルフェア)	コントラクター組織の活動
8	ブロイラー農場研修	堆肥製造と販売
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		